

2024 年度 調査報告書

地域の障害者スポーツ振興における 施設ネットワーク実践研究

笹川スポーツ財団

〔共同研究者〕

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
社会福祉法人 北九州市福祉事業団

目次

I. 研究概要

1. 研究目的
2. 用語の定義

II. 先行研究（地域における障害者スポーツ施設運営に関する研究：2023 年度）

1. 調査概要
2. 主な調査結果
 - (1) 東京都内のサテライト施設、地域のその他社会資源の潜在的ニーズ調査
 - (2) 北九州市内のサテライト施設、地域のその他社会資源の潜在的ニーズ調査
 - (3) 障害者専用スポーツ施設のあり方
～障害者のスポーツ推進の中核拠点としての役割を果たすために～
 - (4) 障害者専用スポーツ施設における専門職のあり方
～障害者のスポーツとの出会いや活動の充実に寄り添えるキーマンとしての期待～
 - (5) 地域の障害者スポーツをささえる人材の確保とその活用
 - (6) 施設トランジション（移行）の事例ヒアリング
3. まとめと考察
4. 提言
 - (1) ハブ施設、サテライト施設、および地域のその他社会資源に求められる取り組み
 - (2) 施設ネットワークに期待される効果
 - (3) 施設ネットワークの実現に向けて

III. 実践研究（地域の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究：2024 年度）

1. 江戸川区の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究
 - (1) 施設ネットワーク検討会議の開催（2023 年度）
 - (2) 江戸川区モデルプログラム作成（2023 年度）
 - (3) 江戸川区モデルプログラム概要（2024 年度）
 - (4) 江戸川区モデルプログラム詳細（2024 年度）
 - (5) まとめと考察
2. 北九州市の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究
 - (1) 北九州市モデルプログラム概要（2024 年度）
 - (2) 北九州市モデルプログラム詳細（2024 年度）
 - (3) まとめと考察

IV. 実施体制

V. 参考文献

注）「しょうがい」の用語は、「障がい」「障害」「障碍」などがあるが、本報告書では、固有名詞以外は、法律上の「障害」を使用した。

I. 研究概要

1. 研究目的

本研究は、地域の障害者が身近な地域で運動・スポーツに親しめる環境を整備するための効果的な施策や取り組みを検討するために、地域の障害者スポーツの拠点となる障害者スポーツセンターの役割と整備がのぞましい機能、および障害者スポーツセンター以外の障害者優先スポーツ施設や一般の公共スポーツ施設、地域のその他社会資源の役割と整備がのぞましい機能を明らかにし、地域における障害者スポーツセンターを含めた関連施設のあり方を提言することを目的に実施した。

2. 用語の定義

本研究における障害者が利用するスポーツ施設に関する用語を以下の通り定義した(図表 1-1)。

① 障害者専用・優先スポーツ施設

笹川スポーツ財団(以下、SSF)「障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究 2021」で明らかにした 150 施設が該当する。

② 障害者スポーツセンター

障害者専用・優先スポーツ施設のうち、(公財)日本パラスポーツ協会「パラスポーツセンター協議会」加盟の 26 施設が該当する。パラスポーツセンター協議会は、施設の運営における諸問題等に関する意見交換や交流の場として 1984 年に「身体障害者スポーツセンター協議会(現・パラスポーツセンター協議会)」として発足した。

③ 障害者専用スポーツ施設

障害者スポーツセンターのうち、障害者のみが利用可能な施設。全国では、東京都障害者総合スポーツセンター、東京都多摩障害者スポーツセンター、名古屋市障害者スポーツセンター、大阪市長居障がい者スポーツセンター、大阪市舞洲障がい者スポーツセンターの 5 施設が該当する。

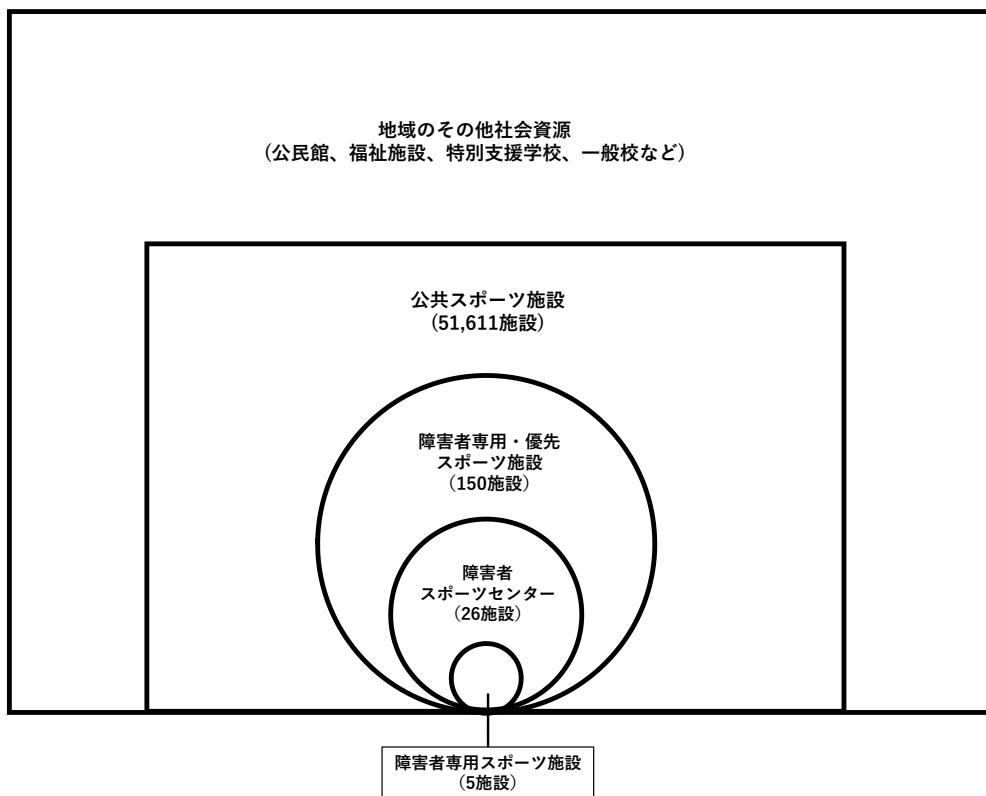
④ 公共スポーツ施設

「公立社会教育施設等に付帯するスポーツ施設」(4,630 施設)と「社会体育施設」(4 万 6,981 施設)を合わせた 5 万 1,611 施設が該当する。

⑤ 地域のその他社会資源

スポーツ以外の目的で使用されている公民館や福祉施設、特別支援学校や一般校などの地域の社会資源が該当する(①～④を除く)。

図表 1-1 障害者が利用できる地域の社会資源の概要



Ⅱ. 先行研究（地域における障害者スポーツ施設運営に関する研究：2023 年度）

1. 調査概要

SSF「障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究 2021」では、地域の障害児・者のスポーツ環境の整備において、障害者専用・優先スポーツ施設をはじめとした地域のスポーツ施設のネットワーク化の必要性を政策提言した（図表 2-1）。提言では、地域との関わりのなかで既存の社会資源を活用して、日常的にスポーツに取り組める環境づくりが重要であると考え、地域の施設をハブ施設、サテライト施設、既存の社会資源の 3 タイプに分類し、ネットワーク構築を提案している。3 タイプの定義は以下の通りである。

① ハブ施設

障害の程度が軽度から重度まで、スポーツの競技性や志向に至るまで、多種多様なニーズに対応できる専門家を有している障害者スポーツセンターをハブ施設と定義する。

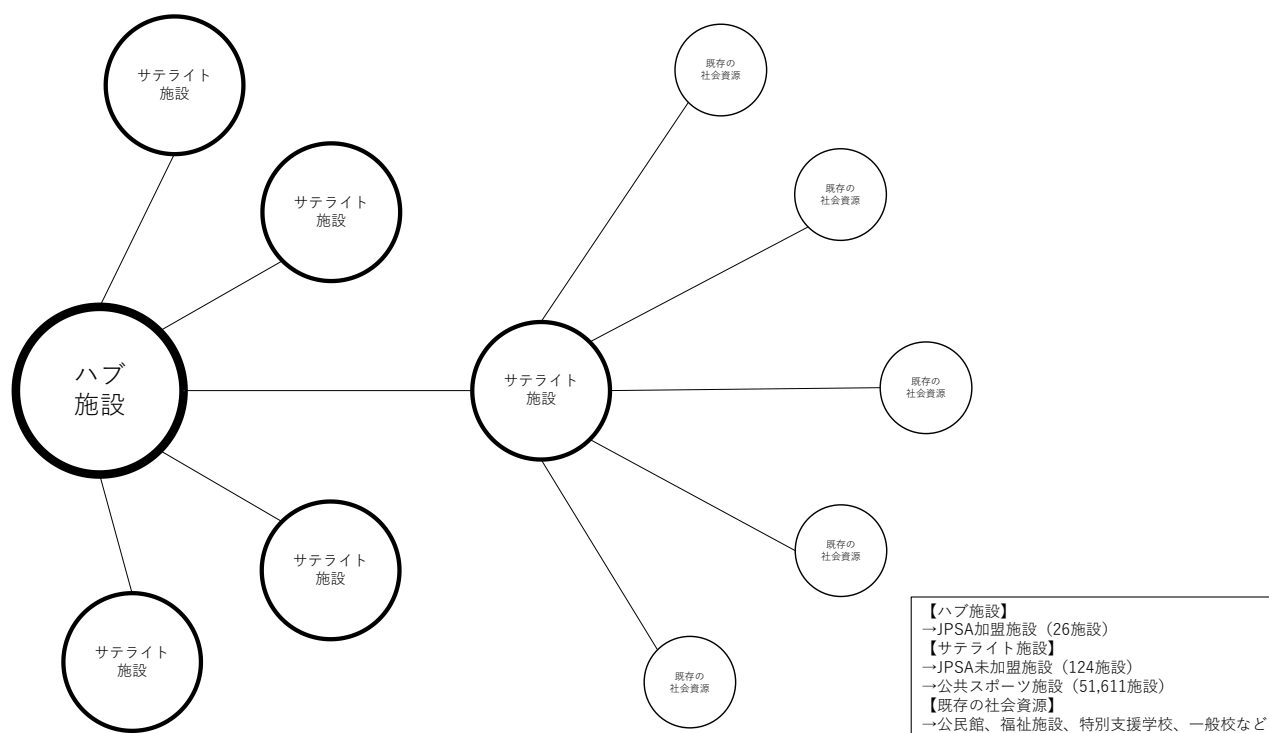
② サテライト施設

障害者専用・優先スポーツ施設 150 施設のうち、①のハブ施設を除いた 124 施設と、スポーツ庁「体育スポーツ施設現況調査」（2019 年）において、公共スポーツ施設とされる「公立社会教育施設等に付帯するスポーツ施設」（4,630 施設）と「社会体育施設」（4 万 6,981 施設）を合わせた 5 万 1,611 施設をサテライト施設と定義する。

③ 既存の社会資源

ハブ施設、サテライト施設以外で、すでにスポーツ以外の目的で使用されている公民館や福祉施設、特別支援学校や一般校などを既存の社会資源と定義する（本研究では、社会資源をより広義に捉えるため「地域のその他社会資源」と定義する）。

図表 2-1 ハブ施設、サテライト施設、既存の社会資源と地域との関係



SSF「障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究 2021」（2022）

2. 主な調査結果

(1) 東京都内のサテライト施設、地域のその他社会資源の潜在的ニーズ調査

① 対象施設の定義

地域の施設ネットワーク化に向けたモデルとして、東京都内の東京都障害者総合スポーツセンター（以下、総合 SC）と東京都多摩障害者スポーツセンター（以下、多摩 SC）をそれぞれハブ施設と定義し、その周辺の 10 自治体をサテライト施設、地域のその他社会資源の対象自治体として施設を抽出した。

② 調査対象

東京都におけるハブ施設（2 施設）、サテライト施設（145 施設）、地域のその他社会資源（437 施設）を対象とした（図表 2-2）。

● ハブ施設

- ・ 東京都障害者総合スポーツセンター
- ・ 東京都多摩障害者スポーツセンター

※いずれの施設も日本パラスポーツ協会公認パラスポーツセンター協議会加盟施設である。

● サテライト施設

総合 SC、多摩 SC の各施設において、利用者が多い基礎自治体の上位 10 自治体内の公共スポーツ施設（145 施設）をサテライト施設とした。

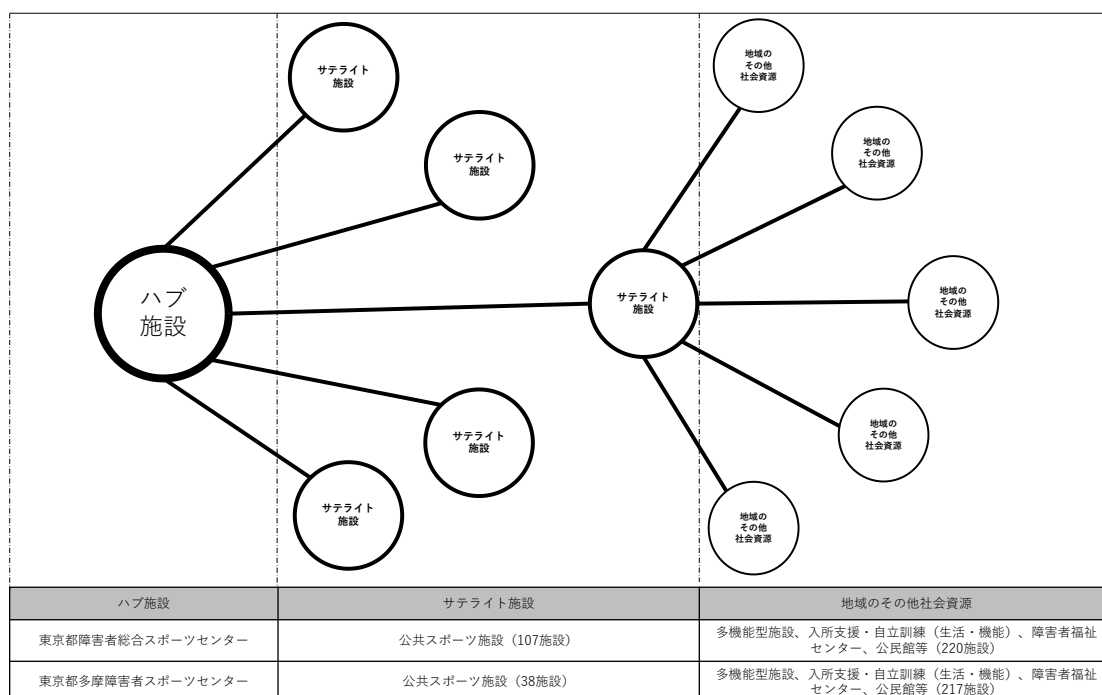
- ・ 総合 SC の該当自治体（北区、板橋区、足立区、練馬区、豊島区、荒川区、文京区、江東区、江戸川区、新宿区）内の公共スポーツ施設は 107 施設であった。
- ・ 多摩 SC の該当自治体（国立市、府中市、国分寺市、立川市、八王子市、日野市、小金井市、小平市、武蔵野市、調布市）内の公共スポーツ施設は 38 施設であった。

● 地域のその他社会資源

前述の該当自治体内の多機能型施設（212 施設）、入所支援・自立訓練（生活・機能）（105 施設）、障害者福祉センター（23 施設）、公民館等（97 施設）のあわせて 437 施設を地域のその他社会資源と定義した。

- ・ 総合 SC の該当自治体内の地域のその他社会資源は 220 施設であった。
- ・ 多摩 SC の該当自治体内の地域のその他社会資源は 217 施設であった。

図表 2-2 東京都内のハブ施設・サテライト施設・地域のその他社会資源のネットワーク図



③調査項目

- ・ 施設の設置および管理状況
- ・ 施設の付帯施設の設置状況
- ・ 施設の利用者の状況
- ・ 施設の指導者
- ・ 施設の実施事業
- ・ 施設の実施種目
- ・ 利用にあたっての工夫・配慮
- ・ 総合 SC、多摩 SC の認知度
- ・ 連携協働状況

④調査期間

2022 年 11 月～12 月

⑤調査方法

郵送法*

(*注) 対象施設が希望した場合は、調査票データをメールで送付し、回答済み調査票をメール添付で返送いただいた。

⑥回収状況

回収率は 30.4% (177 施設) で、サテライト施設が 49.0% (71 施設)、地域のその他社会資源が 24.3% (106 施設) だった。総合 SC をハブ施設とした場合、サテライト施設の回収率は 48.6%、地域のその他社会資源の回収率は 25.9%、多摩 SC をハブ施設とした場合、サテライト施設の回収率は 50.0%、地域のその他社会資源は 22.6% だった。

⑦調査の実施体制

本研究は、東京都障害者スポーツ協会と笹川スポーツ財団が共同で実施した。

⑧主な調査結果

- ・ **行政の所管部署**: スポーツ関連部署、障害者福祉／社会福祉関連部署、公園緑地関連部署、社会教育関連部署、地域振興部署など多様。
- ・ **施設(ハード面)**: サテライト施設では、約 4 割の施設が、「トレーニング室」「体育館・体育室」「プール」「グラウンド」「テニスコート」のいずれかを設置、地域のその他社会資源には、運動・スポーツ関連の付帯施設はほとんどなく、「体育館・体育室」が約 1 割。
- ・ **施設(ソフト面)**: 日本パラスポーツ協会公認「初級パラスポーツ指導員」の資格保有者のいる施設の割合は、サテライト施設、地域のその他社会資源あわせて 16.3% (8 割以上の施設で障害者スポーツ指導に関する有資格者が不在)。
- ・ **障害者の利用状況**: サテライト施設において「障害者の利用があり、利用者数を把握している」のは約 2 割、地域のその他社会資源においては約 6 割。
- ・ **実施種目**: サテライト施設においては、水泳、水中運動、卓球、ボッチャ、車いすバスケットボール、地域のその他社会資源においては、散歩(ぶらぶら歩き)、体操(軽い体操、ラジオ体操など)、健康体操・ヨガ、ボッチャ、ウォーキングなどが上位。
- ・ **実施事業**: サテライト施設においては、運動・スポーツ教室は約 7 割、スポーツ大会・イベントは約半数、巡回運動・スポーツ教室はほとんど実施していなかった。地域のその他社会資源においては、運動・スポーツ教室は約 2 割、スポーツ大会・イベントは約 1 割、巡回運動・スポーツ教室はほとんど実施していなかった。
- ・ **不安や懸念点**: 地域のその他社会資源よりもサテライト施設の方が不安や懸念点を多く持っており、特にサテライト施設では、「障害者用のスポーツ用具がない」「障害の知識を持ったスタッフがいない」「障害者へのスポーツ指導方法が分からない」「施設がバリアフリーではない」など、ハード、ソフト両面において不安を抱いていた。
- ・ **ハブ施設との連携・協働に向けて**: いずれの施設でも、安心・安全な環境整備(器具・設備等)を重視。特に、サテライト施設においては、スポーツ事業の実施支援や相談、施設スタッフの資質向上に向けた人材育成支援、地域のその他社会資源においては、スポーツ支援・指導ができる専門職の派遣、プログラムの情報提供、周知啓発などが重要だった。
- ・ **連携・協働している施設・組織**: サテライト施設においては、行政との連携・協働が約 4 割と最も多く、連携・協働している施設や組織がないのが約 3 割だった。地域のその他社会資源においては、約 5 割が行政、約 3 割が特別支援学校・特別支援学級と連携・協働していた。

(2) 北九州市内のサテライト施設、地域のその他社会資源の潜在的ニーズ調査

①対象施設の定義

地域の施設ネットワーク化に向けたモデルとして、福岡県北九州市内の北九州市障害者スポーツセンター・アレアス(以下、アレアス)をハブ施設と定義し、北九州市内の施設をサテライト施設、地域のその他社会資源として抽出した。

②調査対象

北九州市におけるハブ施設(1施設)、サテライト施設(90施設)、地域のその他社会資源(237施設)を対象とした(図表 2-3)。

●ハブ施設

北九州市障害者スポーツセンター アレアス

※日本パラスポーツ協会公認パラスポーツセンター協議会加盟施設である。

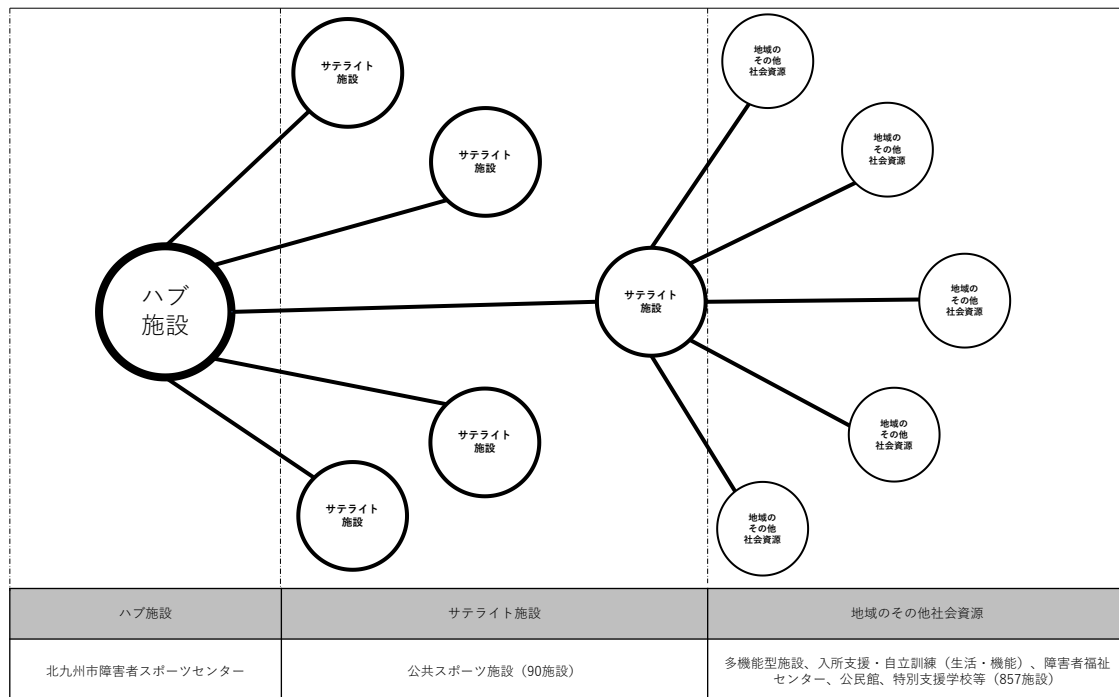
●サテライト施設

北九州市内の公共スポーツ施設(90施設)をサテライト施設とした。

●地域のその他社会資源

北九州市内の多機能型施設(400施設)、入所支援・自立訓練(生活・機能)(309施設)、障害者福祉センター(2施設)、公民館等(136施設)、特別支援学校(10施設)のあわせて857施設を地域のその他社会資源と定義した。そのうち、SSF「東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究」(2022)と同規模の調査を実施するために、行政区ごとに施設数を調整し、「【障害児】多機能型施設」(135施設)、「【障害者】入所支援・自立訓練(生活・機能)」(50施設)、「障害者福祉センター」(2施設)、「公民館等」(40施設)、「特別支援学校」(10施設)を対象とした。

図表 2-3 北九州市内のハブ施設・サテライト施設・地域のその他社会資源のネットワーク図



③調査項目

- ・ 施設の設置および管理状況
- ・ 施設の付帯施設の設置状況
- ・ 施設の利用者の状況
- ・ 施設の指導者
- ・ 施設の実施事業
- ・ 施設の実施種目
- ・ 利用にあたっての工夫・配慮
- ・ アレアスの認知度
- ・ 連携協働状況

④調査期間

2023 年 10 月～12 月

⑤調査方法

郵送法*

(*注) 対象施設が希望した場合は、調査票データをメールで送付し、回答済み調査票をメール添付で返送いただいた。

⑥回収状況

回収率は 31.5% (103 施設) で、サテライト施設が 47.8% (43 施設)、地域のその他社会資源が 25.3% (60 施設) だった。

⑦調査の実施体制

本研究は、北九州市福祉事業団と笹川スポーツ財団が共同で実施した。

⑧主な調査結果

- ・ **行政の所管部署**: サテライト施設では、スポーツ関連部署が多くを占め、地域のその他社会資源では障害者福祉／社会福祉関連部署が多かった。
- ・ **施設(ハード面)**: サテライト施設では、約 4 割の施設が、「体育館・体育室」もしくは「小体育館・小体育室」を設置、地域のその他社会資源には、運動・スポーツ関連の付帯施設の設置している施設はほとんどなく、「体育館・体育室」もしくは「小体育館・小体育室」を設置しているのが約 1 割。
- ・ **施設(ソフト面)**: 日本パラスポーツ協会公認「初級パラスポーツ指導員」の資格保有者がいる施設の割合は、サテライト施設、地域のその他社会資源あわせて 10.5% で、資格保有者がいない施設が多くを占めた。
- ・ **障害者の利用状況**: サテライト施設において「障害者の利用があり、利用者数を把握している」のは約 6 割、地域のその他社会資源においては約 7 割。
- ・ **実施種目**: サテライト施設においては卓球、バドミントン、テニス、水泳、陸上、地域のその他社会資源においては、散歩(ぶらぶら歩き)、体操(軽い体操、ラジオ体操など)、ウォーキング、水

中運動などが上位。

- ・ **実施事業**: サテライト施設においては、運動・スポーツ教室は約 4 割、スポーツ大会・イベントは約 2 割、巡回運動・スポーツ教室はほとんど実施していなかった。地域のその他社会資源においては、運動・スポーツ教室は約 1 割、スポーツ大会・イベントは約 1 割、巡回運動・スポーツ教室はほとんど実施していなかった。
- ・ **不安や懸念点**: サテライト施設では、「障害の知識を持ったスタッフがいらない」「障害者用のスポーツ用具がない」「施設がバリアフリーではない」「障害者のニーズがあるか分からない」が続く。地域のその他社会資源では、「障害者用のスポーツ用具がない」「障害者へのスポーツ指導方法が分からない」「施設がバリアフリーではない」が多く、ハード、ソフト両面において不安を抱いていた。
- ・ **ハブ施設との連携・協働に向けて**: いずれの施設においても「障害の種類・程度、目的に応じてスポーツができる安心・安全な環境整備（器具・設備等）」を最も重視していた。さらに、サテライト施設では、「障害者スポーツセンターが実施する多様なプログラムの情報提供、周知啓発」、地域のその他社会資源では、「障害の種類・程度、目的に応じたスポーツ用具の貸出」「障害者スポーツセンターが実施する多様なプログラムの情報提供、周知啓発」などが重要だった。
- ・ **連携・協働している施設・組織**: サテライト施設においては、約半数が連携・協働している施設や組織がなかった。地域のその他社会資源においては、約 6 割が「特別支援学校・特別支援学級」、約半数が「行政（区市町村）」、約 4 割が「放課後等デイサービス事業者」と連携・協働していた。

(3) 障害者専用スポーツ施設のあり方

～障害者のスポーツ推進の中核拠点としての役割を果たすために～

①調査期間

2022 年 9 月～2023 年 3 月

②調査の実施体制

本研究は、東京都障害者スポーツ協会と笹川スポーツ財団が共同で実施した。

③主な調査結果

東京都障害者スポーツ協会が指定管理者として運営する東京都障害者総合スポーツセンターと東京都多摩障害者スポーツセンターの役職員との議論を経て、障害者専用スポーツ施設のあり方を 5 項目に定義した。

- 1) 障害の種類・程度、利用の目的などに応じてスポーツができる設備・用具がある: 安心・安全をハード面で保障
- 2) 障害の種類・程度、利用の目的などに応じて日常的にスポーツ支援・指導ができる専門職がいる: 安心・安全をソフト面で保障
- 3) 多様な活動機会を通じて、ささえる人材の育成・養成・実践の場を提供する
- 4) 障害の種類・程度・利用の目的などに応じた個別相談・インテーク、スポーツ教室、大会など多様なプログラムを実施する
- 5) 関係機関・団体と連携・協働し、地域におけるネットワーク構築の主体的な役割を担い、スポーツ環境を整備する

(4) 障害者専用スポーツ施設における専門職のあり方

～障害者のスポーツとの出会いや活動の充実に寄り添えるキーマンとしての期待～

①調査期間

2022 年 9 月～2023 年 3 月

②調査の実施体制

本研究は、東京都障害者スポーツ協会と笹川スポーツ財団が共同で実施した。

③主な調査結果

東京都障害者スポーツ協会が指定管理者として運営する東京都障害者総合スポーツセンターと東京都多摩障害者スポーツセンターの役職員との議論を経て、障害者専用スポーツ施設における専門職のあり方として、専門職が備えるべき能力を 3 つにまとめた。

1) 支援力・指導力

→障害の種類・程度、利用の目的などを問わず、一人ひとりに向き合いスポーツ支援・指導ができる

2) 想像力・創造力

→各施設や場所の特色を理解し、障害者のスポーツ環境を整えることができる

3) 発信力・調整力・情報収集力

→障害者スポーツに関する情報を発信し、地域の関係機関・団体を繋げることができる

(5) 地域の障害者スポーツをささえる人材の確保とその活用

①調査期間

2023 年 11 月～2024 年 2 月

②調査の実施体制

本研究は、北九州市福祉事業団と笹川スポーツ財団が共同で実施した。

③主な調査結果

日本パラスポーツ協会(JPSA)公認パラスポーツ指導員は、2023 年 12 月 31 日現在、初級 2 万 1,699 人、中級 4,332 人、上級 900 人と、合計 2 万 6,931 人の指導者が登録されている。都道府県では、これらの有資格指導者の人材バンクとしてパラスポーツ指導者協議会が組織され、障害者スポーツの大会や障害者専用・優先スポーツ施設の教室などにおいて、登録している指導者が活動している。パラスポーツ指導員を核とした人材バンクは、一部の政令指定都市にもある。このほか、障害者スポーツのボランティア組織として、自治体や都道府県・政令市のパラスポーツ協会、障害者専用・優先スポーツ施設が独自に養成・管理する障害者スポーツボランティア組織がある。東京 2020 パラリンピック大会の開催を契機に、障害者スポーツに触れる機会は増加し、それに伴い、障害者スポーツにかかわりたい人も増加した。各地でパラスポーツアンバサダー、障害者スポーツサポーターなどの名称で障害者スポーツのボランティア養成講習会が開催されるようになり、障害者スポーツにかかわる人材が増えた。一方で、講習会を受講してボランティア登録はしたものの、活動する機会がなく、受講後の活動に繋がらない人も少なからずいる。そのような実態に対して、東京都障害者スポーツ協会では、障害者スポーツを支える意欲ある人材と、関連団体、行政、地域スポーツクラブ、障害者スポーツ競技団体などが行う障害者スポーツ関連事業のボランティア募集情報とのマッチングを図り、人材の活動活性化と障害者スポーツ事業の円滑な運営と展開を促進することを目的に、マッチングシステムを開発、提供している。さらに、協会内にボランティアコーディネーターを配置し、初めて活動することに不安のある人や活動先を探している人、ボランティアを募集したい人などの相談にも乗っている。

地域の障害者スポーツをささえるボランティア確保と効果的な活用にはいまだ課題が残るなか、本稿では、障害者スポーツボランティアが組織化され活動している北九州市を紹介する。

北九州市障害者スポーツ協会の事務局は北九州市障害者スポーツセンターの施設内にある。主な活動内容は、競技大会の企画運営、アスリートの育成・競技力の向上、全国障害者スポーツ大会への選手派遣である。市内の障害者スポーツ振興はアレアスと連携しており、北九州市障害者スポーツ協会と障害者スポーツセンターで役割を分担している。パラスポーツ指導員の資格保有者や指導者養成講習会受講者に加えて、資格の有無にかかわらず障害者へのスポーツ支援に意欲や理解のある人を対象に、2003 年に障害者スポーツボランティア組織「SKET(Sports Know-how Enjoy Tie up の頭文字をとった名称)」を設立した。事務局はアレアスが統括しており、SKET が市内の障害者スポーツ振興をささえている。SKET の登録者は 90 名(2023 年度)。北九州市障害者スポーツ協会と連携しながら、市内全域で活動している。会員が持つスポーツや障害に関する知識、指導技術を活かし、障害者とともに楽しみながら障害者スポーツをささえることを目的にしている。会員の約 3 分の 2 は、JPSA 公認パラスポーツ指導員の資格保有者であり、障害者のさまざまな活動場所において指導者や支援者として活躍している。活動歴も多様で、入会して間もない会員もいれば、活動歴 10 年以上の会員もいる。活動の実態は、障害者のスポーツ大会やスポーツ教室等における審判員、補助員、講師などで、活動歴や参加目的により、参加形態や役割は異なる。

(6) 施設トランジッション(移行)の事例ヒアリング

①調査期間

2023 年 9 月～2024 年 2 月

②調査の実施体制

本研究は、東京都障害者スポーツ協会と笹川スポーツ財団が共同で実施した。

③主な調査結果

ハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源の施設ネットワークは、年代やライフステージにより変わりゆく障害者のニーズや健康状態に対応し、利用するスポーツ施設のトランジッション(移行)を可能にする(図表 2-4)。施設のネットワーク化の進展により、以下①～③に示す「地域移行」「加齢等による障害の重度化」「専門性・競技性の向上」の3つの面から、障害者のスポーツ活動の幅が広がると考える。

1) 地域移行

施設、指導者、そして共に活動する仲間が充実したハブ施設でスポーツを始めた障害者が、体力・技術を身につけて、自宅や職場により近いサテライト施設や地域のその他社会資源に活動の場を移したり、ハブ施設での活動と併用したりする。サテライト施設や地域のその他社会資源では、障害のない人に交じって活動する機会も広がる。

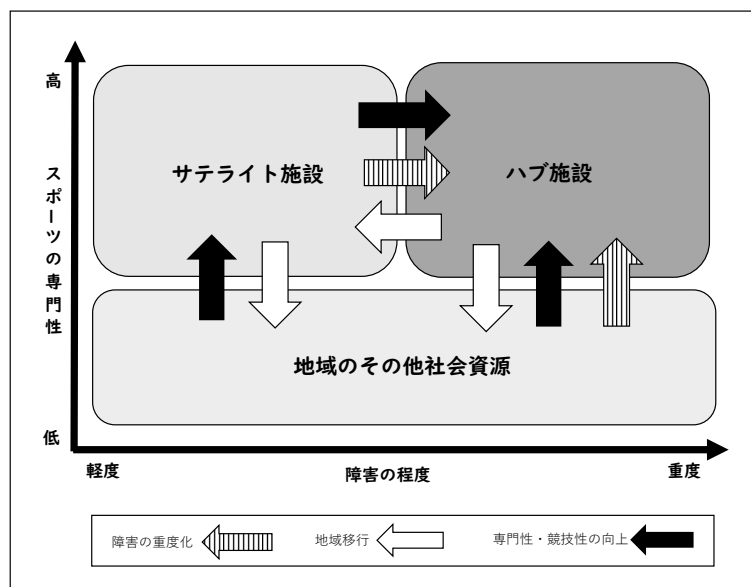
2) 加齢等による障害の重度化

サテライト施設や地域のその他社会資源で活動していた障害者が、加齢や疾病により障害が重度化(重複化の場合もあり)し、スポーツをするのが難しくなった際、ハブ施設に移ることで、充実した施設と専門性の高い指導者のもとで、スポーツをやめずに続けることができる。

3) 専門性・競技性の向上

サテライト施設や地域のその他社会資源でスポーツを始めた障害者が、より高い競技レベルを志向したり、より専門性の高い競技・種目に移行(転向)したりする際、サテライト施設からハブ施設へ、地域のその他社会資源からハブ施設やサテライト施設へ活動の場を移行することができる。

図表 2-4 障害者の施設トランジッション(移行)イメージ(2022 年度時点)



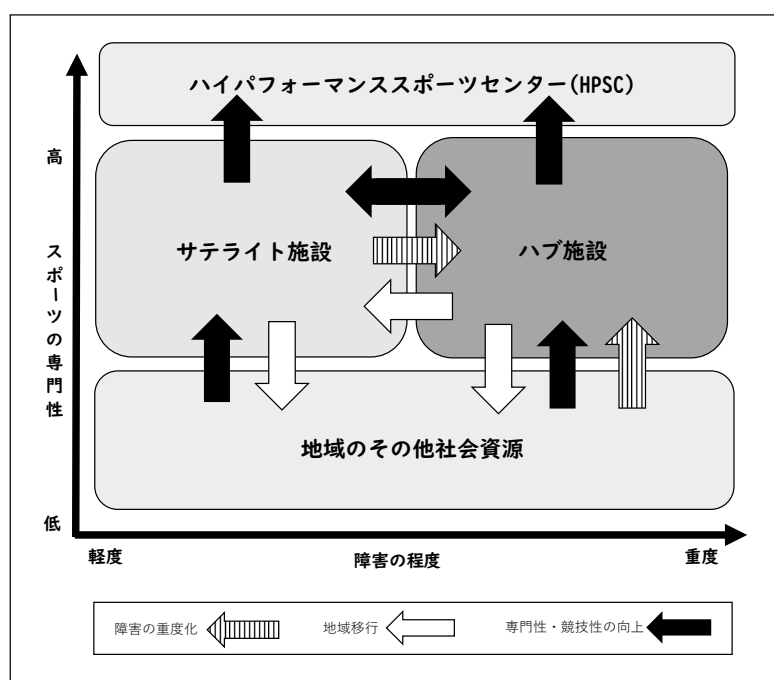
④明らかになった新たな視点

2022 年度調査時に想定していた P48 の施設トランジッション(移行)に新たな視点を 2 点加えた(図表 2-5)。

①競技力向上を目指す場合、必ずしもハブ施設の練習環境が最善とは限らないことが確認された。ハブ施設に 400mトラックがなく、近隣の公共スポーツ施設にその環境を求めた結果、日常利用に繋がったケースや、アーチェリーの競技特性上、射場の認定証が取得できれば、障害の有無にかかわらず利用できるケースが判明したが、利用施設までの動線(陸上トラック、射場、更衣室、入口など)のバリアフリーが確保できれば、サテライト施設でも障害者の競技力向上に貢献できることが分かった。そのため、トランジッション(移行)の方向として、【ハブ施設】→【サテライト施設】を追加した。

②日本代表クラスのアスリートはハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)を利用している。HPSC は、国立スポーツ科学センター(JISS)とナショナルトレーニングセンター(NTC)が持つスポーツ医・科学、情報等による研究、支援及び高度な科学的トレーニング環境を提供し、ハイパフォーマンススポーツの強化に貢献する施設である。トランジッション(移行)の方向としては、ハブ施設やサテライト施設で練習を積んで移行する可能性が考えられるため、【ハブ施設】→【HPSC】、【サテライト施設】→【HPSC】を追加した。

図表 2-5 障害者の施設トランジッション(移行)イメージ(2023 年度)



⑤今後の課題

施設トランジッション(移行)の事例からみてきたのは、ハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源が、施設同士でネットワークを構築し場を確保した実態ではなく、利用者自身が個別に活動場所を探し、継続的な活動機会を得ている実態であった。利用者がトランジッション(移行)のための施設を見つける負担を減らし、日常的な活動の場を広げていくためには、施設ネットワークの構築が重要になる。

これまでの知見から、地域移行については、長年使用して慣れ親しんだハブ施設から、身近な地域のサテライト施設や地域のその他社会資源に移ることに抵抗を持つ利用者もあり、地域移行が必

ずしもうまくいっているわけではないことは明らかである。一方で、一度、地域移行した利用者が障害の重度化に伴い、専門職が常駐するハブ施設に戻って来るケースもある。その場合、地域移行により解消されていた自宅からハブ施設までのアクセシビリティの問題が再び浮かび上がってくる。

こうした課題を解消するためにも、施設ネットワークにおける各施設の役割や取り組みを明らかにして、地域全体で補完していく仕組みが必要となる。

3. まとめと考察

本研究では、地域の障害児・者が身近な地域で運動・スポーツに親しめる環境整備に向けての効果的施策や取り組みを検討するため、拠点となる障害者スポーツセンター、および一般の公共スポーツ施設、地域の社会資源の役割と備えるべき機能について、事例研究として、2022年度の東京都の事例研究に加え、北九州市内の施設を対象に実態を明らかにした。

施設ネットワーク化に向けて、東京都では、総合 SC と多摩 SC をそれぞれハブ施設と定義し、その周辺の 10 自治体を対象地域として、サテライト施設、地域のその他社会資源を抽出した。総合 SC (ハブ施設) におけるサテライト施設は 107 施設、地域のその他社会資源は 220 施設、多摩 SC (ハブ施設) におけるサテライト施設は 38 施設、地域のその他社会資源は 217 施設であった。北九州市では、エリアスをハブ施設と定義し、エリアスにおけるサテライト施設は 90 施設、地域のその他社会資源は 237 施設であった。

4. 提言

笹川スポーツ財団では、2010 年以來、障害者が身近な地域でスポーツに親しめる社会の実現のためには、障害者スポーツの専門性の高い施設とその他の施設とのネットワーク化・連携を促進する必要があると提言してきた。ここでは、スポーツ施設を以下の 3 つに分類した。

1) ハブ施設：

都道府県単位で障害者スポーツの拠点(ハブ)として機能する障害者スポーツセンター

- ① 障害者のスポーツの場のコーディネートや質の高い指導ができる人材がいる障害者専用・優先スポーツ施設

⇒日本パラスポーツ協会「パラスポーツセンター協議会」加盟施設(26 施設)

2) サテライト施設：

都道府県・市町村単位で障害者の日常的なスポーツ活動の場となる施設

- ② ①を除く障害者専用・優先スポーツ施設
- ③ ①と②を除く公共スポーツ施設

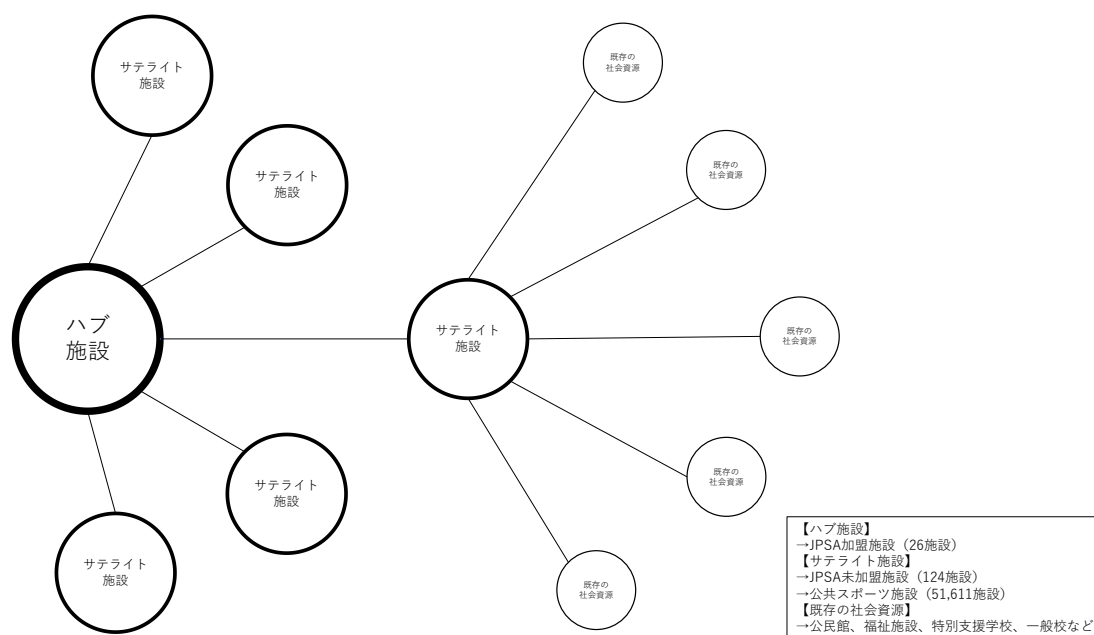
3) 地域のその他社会資源：

ハブ・サテライト施設以外で、障害者のスポーツの場となる施設

- ④ 公民館、福祉施設、特別支援学校・一般校

そのうえで、それぞれの施設の役割とともに、ハブ施設とサテライト施設、サテライト施設とその他社会資源とのネットワーク化のイメージを示した(図表 2-6)。

図表 2-6 ハブ施設・サテライト施設・地域のその他社会資源とのネットワーク化のイメージ



障害者のスポーツについて明記されたスポーツ基本法の施行（2011）や東京 2020 大会の開催決定（2013）などを受けて、行政や民間企業の施策や事業が進展し、障害者のスポーツに対する社会の関心は急速に高まってきた。しかし、障害者のためのスポーツ施設のネットワーク化は実現しておらず、地域における障害者のスポーツ環境が充実したとは言い難い。東京都「令和 4 年度 障害者のスポーツ施設利用促進事業：アンケート調査」（2022）をみても、公共施設でスポーツを行う障害者は、2015 年の調査と比較して増えていない。新型コロナウイルスに水を差された面はあるものの、東京 2020 大会開催を、障害者の競技スポーツと生涯スポーツの推進に繋げるためのさらなる取り組みが求められる。

（1）ハブ施設、サテライト施設、および地域のその他社会資源に求められる取り組み

本研究では、東京都、北九州市を事例に、障害者のスポーツ環境整備の拠点となるハブ施設に求められる役割・機能と、施設で働く専門職が備えるべき能力を整理した。そして、サテライト施設や地域のその他社会資源へのアンケート調査を通じて、「障害者のためのスポーツ施設ネットワーク」（以下、施設ネットワーク）の実現に向けた検討を行った。これまでの知見を踏まえて、障害者のスポーツ活動推進にかかわる 5 つの主な事業・機能について、それぞれの施設に期待される取り組みの具体例を以下に示す（図表 2-7）。

1) 運動・スポーツ相談【ハブ施設】

障害者が運動・スポーツを新たに始めたい、または再開したい時、障害の種類や程度と本人のニーズを踏まえて、適した種目や活動を紹介する機能

重度障害者が安全にスポーツをする際、医師や理学療法士などの専門家の知見が必要な場合があることから、ハブ施設では運動・スポーツ相談機能が必須要件となる。一方、サテライト施設や地域のその他社会資源では、運動・スポーツを始めたい障害者（または、その家族）から相談を受けた際、障害の程度にかかわらず、当事者の安全なスポーツ活動に不安がある場合、連携するハブ施設の専門職から気軽に助言が得られるよう施設ネットワーク化による情報共有が必

要となる。

2) スポーツ教室【ハブ施設】【サテライト施設】【地域のその他社会資源】

種目別、レベル別、障害種別など、指導者のもとで目的や対象に合わせて実施されるスポーツ教室

ハブ施設では、経験豊富な専門職が複数配置されているため、さまざまな種目で、初心者向けから、中・上級者向けの教室が提供できる。重度障害者向けの水泳教室などは、施設とスタッフが充実したハブ施設ならではの教室と言える。サテライト施設や地域のその他社会資源でも、日本パラスポーツ協会公認の指導員資格を持つ施設職員や障害者スポーツ指導者協議会から派遣される指導者により、種目別の障害者スポーツ教室や、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるスポーツ教室などを開催するケースが増えつつある。ハブ施設利用者のなかには、身近な公共スポーツ施設等に活動の場がないために、長時間かけてハブ施設に通っている障害者もいる。サテライト施設や地域のその他社会資源で、障害者が参加できるプログラムが充実すれば、障害者が自宅により近いところでスポーツを楽しめるようになる。教室を開催する人材やノウハウのないサテライト施設や地域のその他社会資源に、ハブ施設の指導者が出張して行われる、いわゆる「出前教室」は、ハブ施設の重要な支援機能のひとつである。

3) クラブ・サークル活動支援【ハブ施設】【サテライト施設】【地域のその他社会資源】

主に障害者やその家族からなる種目別、障害種別のクラブやサークル

ハブ施設では、スポーツ教室参加者の自立を促すため、サークル設立を支援することが求められる。さらに、サークル活動団体がハブ施設以外の施設でも活動できるよう支援すれば、身近な地域における障害者のスポーツの場の充実に繋がる。サテライト施設や地域のその他社会資源において、障害者のクラブ・サークルの団体利用は限られている。障害者向けのスポーツ教室を実施している施設は、教室参加者（過去の参加者を含む）にクラブ・サークルの設立を働きかけることが期待される。

4) 大会・イベント・体験会【ハブ施設】【サテライト施設】

障害者の種目別競技大会や障害のある人とない人が競い合う交流大会、障害のない人も参加できる障害者スポーツ体験会など

施設を使用しないウォーキングイベントなどの例外はあるが、一度に多くの人が集まり、初めての施設利用者を含む参加者の安全確保が必要なことから、施設や運営スタッフの充実したハブ施設やサテライト施設での開催が基本となる。大会・イベント等をきっかけに、新たに施設でスポーツを定期的に行う障害者を増やすために、参加者を障害者向けのスポーツ教室やトレーニング室の利用者講習会などに誘導する工夫も必要となる。

5) 講習会・研修会【ハブ施設】【サテライト施設】

障害者のスポーツ活動現場をささえる人材の育成を目的とした講習会・研修会

ハブ施設や一部のサテライト施設では、日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員の養成講習会が開催されている（自治体の主催を含む）。また、指導者等のスキルアップのためのフォローアップ講習会や、資格取得後、活動機会に恵まれなかった人を対象としたリ・スタート研修会などを通じた指導者育成も、ハブ施設の重要な役割である。このほか、サテライト施設のなかには、

施設や自治体が主催し、障害者のスポーツ指導や、障害者のスポーツ活動のサポート役を担う人材を育成する独自の研修会を行っているところもある。スポーツ種目の指導が難しくても、スポーツ教室の運営を補助する立場で、障害者のスポーツ活動支援に貢献できる人材を確保する取り組みが期待される。

1)～5)で示したハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源がそれぞれの役割を果たし、各施設で事業を効果的に実施していくためには施設ネットワークの構築が不可欠となる。各地域で障害者のスポーツ環境は異なるが、地域全体で補完していく仕組みとして、施設ネットワークが進むことを期待したい。

図表 2-7 施設の役割別に求められる障害者のスポーツ推進事業：東京都の事例より

	【ハブ施設】 障害者 スポーツセンター	【サテライト施設】 障害者優先 スポーツ施設 公共スポーツ施設	【地域の その他社会資源】 公民館、福祉施設、 特別支援学校、一般校等
1. 「運動・スポーツ相談」事業	◎	○	○
障害者が運動・スポーツを新たに始めたい・再開したい時、障害の種類や程度と本人のニーズを踏まえて、適した種目や活動を紹介する機能	医師・理学療法士等によるスポーツ医事相談、運動相談など	ハブ施設からの助言	ハブ施設からの助言
2. 「スポーツ教室」事業	◎	○	○
種目別、レベル別、障害種別など、目的や対象に合わせて実施されるスポーツ教室	種目別教室、 初・中・上級向け教室、 重度障害者向け教室、 出前教室等	種目別教室、 初心者向け教室、 障害の有無にかかわらず参加できる 運動・スポーツ教室	種目別教室、 初心者向け教室、 障害の有無にかかわらず参加できる 運動・スポーツ教室
3. 「クラブ・サークル活動支援」事業	◎	○	○
障害者やその家族からなる種目別、障害種別のクラブやサークル	サークル設立支援、 サークルの地域移行（サ テライト施設等利用） 支援	サークル設立支援 （教室参加者への 働きかけ）	サークル設立支援 （教室参加者への 働きかけ）
4. 「イベント（大会・体験会等）」事業	◎	○	
障害者の種目別競技大会や障害のある人となない人が競い合う交流大会、障害者スポーツの体験会など	大会・イベント・ 体験会の主催、 参加者の施設定期利用の 促進	大会・イベント・ 体験会の主催・共催、 参加者の施設定期利用の 促進	
5. 「講習会・研修会」事業	◎	○	
障害者のスポーツをささえる人材の育成を目的とした講習会・研修会	指導者の養成講習会、 フォローアップ講習会、 リ・スタート研修会、 指導補助・教室運営補 助、人材育成の研修会	指導者の養成講習会、 指導補助・教室運営補 助、人材育成の研修会	

◎必須要件 ○任意要件

(2) 施設ネットワークに期待される効果

ハブ施設、サテライト施設、および地域のその他社会資源が地域単位でネットワーク化すれば、それぞれの施設における障害者のスポーツ参加の受け皿が広がる。スポーツ庁「令和 5 年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」において、運動・スポーツを実施する施設で最も多いのは「自宅(入所施設含む)」(46.8%)であることがわかっている。スポーツ参加に消極的な障害者に対して、自宅や職場の近くにある身近なスポーツ環境が有効であることから、自宅やその周辺の施設をきっかけとして、地域の公共スポーツ施設や学校開放施設、福祉施設など、サテライト施設や地域のその他社会資源への期待が大きい。

1) ネットワークのメリット

施設ネットワークの最大のメリットは、ハブ施設のノウハウがサテライト施設や地域のその他社会資源に活かされることである。ハブ施設の支援を受けたサテライト施設に、障害者の受入れノウハウが蓄積され、それが周辺の社会資源にも波及していく。サテライト施設や地域のその他社会資源でスポーツをする障害者が増えれば、施設ネットワークの重要性の理解が深まり、障害者のスポーツ振興に必要な予算措置にも繋がると考える。さらには、それが口コミなどで広まり、新たな障害者のスポーツ参加希望の問合せも増えてくるだろう。専門性の高い種目をやりたい障害者や重度障害者からの問合せがあれば、ハブ施設が助言を求められ、個々の障害者のニーズに丁寧に対応していくことになる。

2) 場の拡充と多様化の実現

施設ネットワークは、障害者のスポーツとの出会いの場の拡充と、障害者のスポーツ活動の多様化の実現に繋がる。ハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源が地域単位で連携し、提供する事業・サービスのすみ分けを行うことで、障害の種類や程度、活動の目的などが異なる障害者の多様なニーズへの対応が可能となる。障害者がスポーツに触れるきっかけは人によりさまざまである。そのため、施設ネットワークを通じて、障害者がいつ、どの入口(施設)から入っても(問合せ・相談をしても)、その人に適した活動の場を提供できる体制を整える必要がある。

3) トランジションの可能性

また、施設ネットワークは、年代やライフステージにより変わりゆく障害者のニーズや健康状態に対応し、利用するスポーツ施設のトランジション(移行)を可能にする。これにより、「地域移行」「加齢等による障害の重度化」「専門性・競技性の向上」の3つの面から、障害者のスポーツ活動の幅を広げることができる(図表 2-8)。

①地域移行

施設、指導者、そして共に活動する仲間が充実したハブ施設でスポーツを始めた障害者が、体力・技術を身につけて、自宅や職場により近いサテライト施設や地域のその他社会資源に活動の場を移したり、ハブ施設での活動と併用したりする。サテライト施設や地域のその他社会資源では、障害のない人に交じって活動する機会も広がる。

②加齢等による障害の重度化

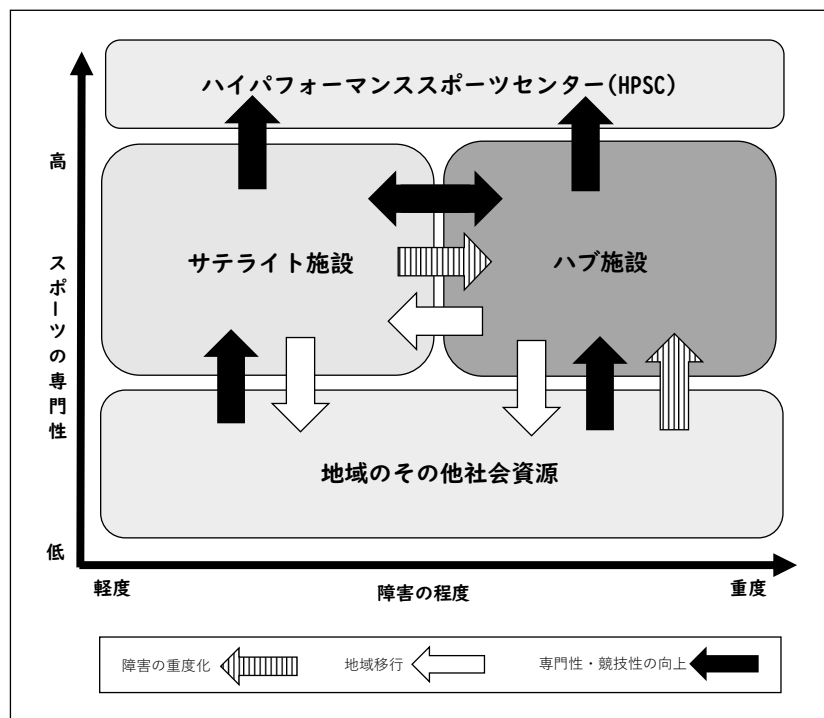
サテライト施設や地域のその他社会資源で活動していた障害者が、加齢や疾病により障害が重度化(重複化の場合もあり)し、スポーツをするのが難しくなった際、ハブ施設に移ることで、充実した施設と専門性の高い指導者のもとで、スポーツをやめずに続けることができる。

③専門性・競技性の向上

サテライト施設や地域のその他社会資源でスポーツを始めた障害者が、より高い競技レベルを志

向したり、より専門性の高い競技・種目に移行（転向）したりする際に、サテライト施設からハブ施設へ、地域のその他社会資源からハブ施設やサテライト施設へ活動の場を移行することができる。

図表 2-8 施設ネットワークによる障害者のスポーツ活動の多様化（再掲）



（3）施設ネットワークの実現に向けて

1) ハブとなる施設の整備・充実

障害者が身近な地域でスポーツに親しめる社会を実現する施設ネットワークを構築するためには、ハブ施設となる障害者スポーツセンターの機能の一層の充実が求められる。サテライト施設との連携は、充実したハブ施設の存在があってはじめて可能となるのは言うまでもない。また、東京都や北九州市と同様、他地域においても、障害者スポーツセンターの機能強化は、地域における障害者のスポーツ推進に有効であると考えられる。現在ハブ施設と想定する、日本パラスポーツ協会「パラスポーツセンター協議会」（以下、センター協議会）加盟施設は 18 都府県の 26 施設に限られている。ネットワークを全国に普及するためには、都道府県に少なくとも 1 つ、人口規模や面積の大きいところではそれ以上の障害者スポーツセンターを整備する必要がある。

この提案は国の方針とも一致している。文部科学省が 2022 年 8 月に発表した「障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書（高橋プラン）～東京大会のレガシーを基盤とした、スポーツを通じた共生社会の構築に向けて～」には、「都道府県ごとに障害者スポーツセンターが設置されることが望まれる」「都道府県等に対して、各地域における障害者スポーツの拠点となる障害者スポーツセンターの整備を促す」の記述がある。国や地方の財政状況を考慮すると、障害者スポーツセンター未整備自治体で施設を新設するのは容易ではない。既存の障害者優先スポーツ施設等の体制を強化し、センターに「格上げ」することを現実的な選択肢とするとともに、規模の大きな施設がない自治体では、複数の施設をあわせて障害者スポーツセンターに位置付けることも検討するべきであ

ろう。

2) ハブ施設のあり方

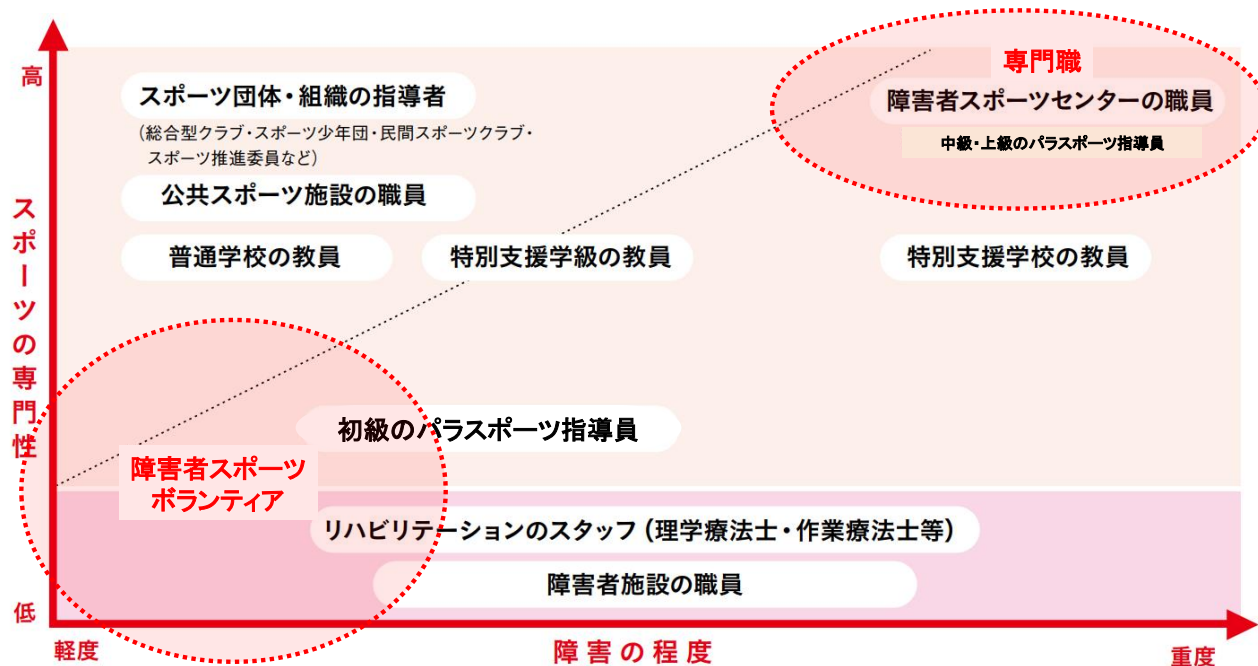
本研究では、東京都の2施設を参考に、拠点としての障害者スポーツセンターのあり方を検討し、5項目の要件を定義した。今後はこれをたたき台に、他の道府県を含めた実践研究に取り組み、国、日本パラスポーツ協会、そしてセンター協議会加盟施設などと協力しながら、都道府県単位でハブ施設の役割を担える障害者スポーツセンターの運営体制や機能を詳細に検討していきたい。運営する施設の規模やカバーする基礎自治体数とその面積などを参考に、配置される職員の適正人員数の算出も慎重に検討していくつもりである。障害者スポーツセンターにおいて、施設の運營業務のかたわら、ネットワークのコーディネート役を担うことができる人材は限られており、他地域のセンター協議会加盟施設も同様の状況であると推察される。都道府県には、障害者スポーツセンターがハブ施設として十分な機能を果たせるよう、専門職の増員や人材育成を前提とした事業や予算配分の見直しを求めている。

東京都と東京都障害者スポーツ協会は、地域の公共スポーツ施設や民間スポーツ施設を利用する障害者を増やすため、2022年度に「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」を制作した（2015年度に制作したマニュアルを改訂）。施設管理者に向けたこのマニュアルでは、障害者スポーツセンターや都内の公共施設における障害者利用のための工夫や配慮の事例などが多数紹介されている。このマニュアルを教材に、東京の2つの障害者スポーツセンターが周辺自治体の公共スポーツ施設や福祉施設、学校施設における障害者の利用を促し、都内自治体から全国のモデルケースとなる施設ネットワークが生まれることが期待される。

3) 人材の活用

障害者スポーツセンターがハブ施設として十分な機能を果たすためにも、人材の活用は最優先事項と言える。本研究では、東京都を例に、障害者専用スポーツ施設における専門職のあり方について整理したが、専用施設に限らず、他のハブ施設やサテライト施設でも同様の能力を備える職員が常駐するのが理想と言える。センター協議会加盟施設において、専門職の育成、確保が課題となっているのは前述の通りだが、施設ネットワークを効果的に機能させるためには、ハブ施設の有給スタッフだけでは十分とは言えない。多様な事業を展開している東京都障害者総合スポーツセンターや多摩障害者スポーツセンターでも不十分であったが、北九州市障害者スポーツセンター・アレアスでも改めて十分でないことが確認された。それらの解決策として、障害者スポーツボランティアの活用が重要となる。北九州市障害者スポーツボランティア組織・SKETを例に、ボランティア活動の一例を整理したが、当事者と一緒にスポーツを楽しむスポーツセンターアレアスの運営支援や大会への付き添い、活動歴が長い会員の場合には教室のメイン指導者としてかかわる場合もあり、活動の幅は広い。JPSA「令和4年度国庫補助事業 公認障がい者スポーツ指導員実態調査報告書」において、パラスポーツ指導員の活動実態について明らかになったが、指導員として日常的に活動していくためには、資格取得後2年以内に活動機会を得て、月1回の定期的な活動を継続することが重要とされている。これは、障害者スポーツボランティアでも同様と考える。ボランティア登録に向けた講習会や研修会を受講後、定期的な活動機会を設けていくことがボランティア活動の定着に繋がるだろう。多様な人材が障害者スポーツの環境整備にかかわることが充実に繋がることは言うまでもない（図表2-9）。なお、ここで示したモデルは人材の多様性を概念化したものであり、専門職のなかにもボランティアとして専門性の高い指導をしている人がいることを追記しておく。

図表 2-9 障害者のスポーツ指導にかかわる人材の多様性モデル



4) 今後の取り組み

本研究では、障害者が身近な地域でスポーツに親しめる社会を実現する施設ネットワークを構築することを提案し、実現に向けて、ハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源の連携の重要性を示している。さらには、連携していくにあたって、専用施設のあり方、専用施設における専門職のあり方、障害者スポーツボランティアの活用についても整理してきた。施設ネットワーク構築に向けた政策提言をもとに、SSF では、2024 年度、東京都江戸川区、福岡県北九州市において、ハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源の施設ネットワーク化、およびトランジション（移行）に関する実践研究を実施していく予定である。

Ⅲ. 実践研究（地域の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究：2024 年度）

1. 江戸川区の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究

（1）施設ネットワーク検討会議の開催（2023 年度）

江戸川区におけるサテライト施設、地域のその他社会資源の実情を把握し、施設ネットワークを実現するにあたっての問題点、課題を明らかにし、モデルプログラムを作成するために、施設ネットワーク検討会議を設置した（図表 3-1）。

図表 3-1 江戸川区施設ネットワーク検討会議委員
（所属先は 2023 年度当時。敬称略、50 音順）

氏名	所属
上山亜紀子	東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課課長
笈川晋一	江戸川区文化共育部スポーツ振興課課長
大磯園子	東京都立鹿本学園PTA代表会長
佐々木ゆみ	東京都障害者スポーツ協会スポーツ振興課課長
佐野敏勝	江戸川ろう者協会理事長
山田勝之	江戸川区総合体育館館長

（2）江戸川区モデルプログラム作成（2023 年度）

2024 年度の実施に向けて、施設ネットワーク検討会議で議論を重ねた（図表 3-2）。具体的には、対象者である鹿本学園の生徒と保護者のニーズを聞き（①②⑧）、事務局でモデルプログラム素案を作成（③⑤⑦⑨）、施設ネットワーク検討会議で実践に向けての意見交換（④⑪）を行った。それ以外にも、該当する関係者からも都度意見を聞き（⑥⑩）、モデルプログラムを作成した。モデルプログラム終了後、親子で日常的に施設を利用できるように、生徒と保護者が一緒に参加する形態とした。

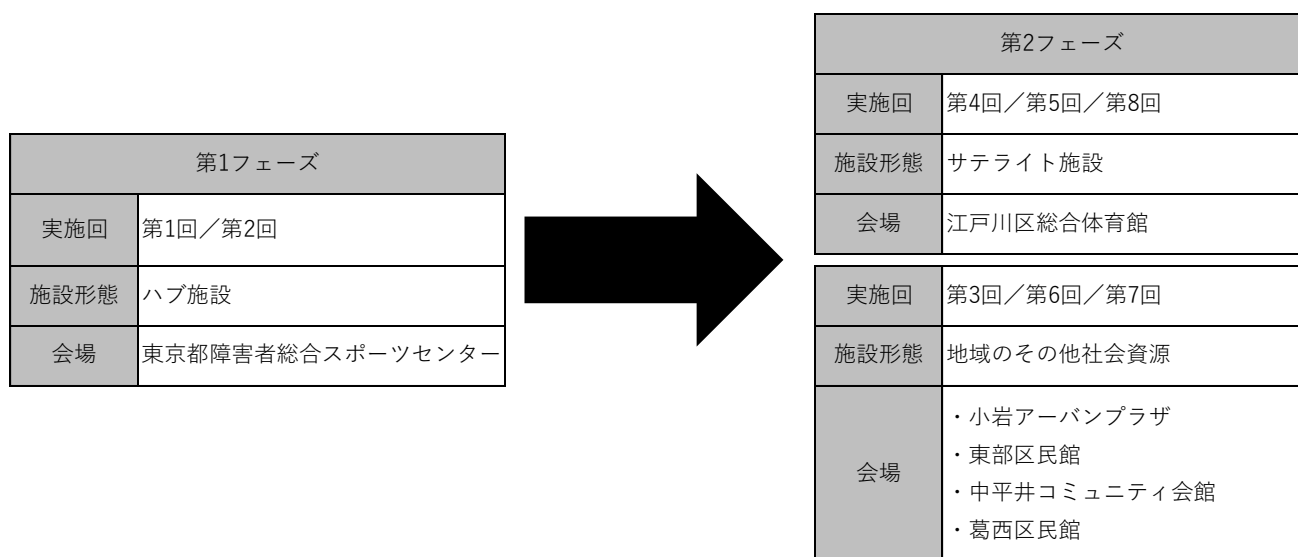
図表 3-2 江戸川区モデルプログラム作成プロセス

日付	内容	対応者
2023/12/4	①鹿本学園PTAに実態把握のヒアリング	鹿本学園PTA／事務局
2024/1/10	②鹿本学園PTAにプログラムについての懸念点、障壁などをヒアリング	鹿本学園PTA役員／事務局
	③プログラム案_Ver1.0を生成	
2024/1/19	④施設ネットワーク検討会議で議論	施設ネットワーク検討会議委員
	⑤プログラム案_Ver 1.1を生成	事務局
2024/2/15	⑥プログラム生成会議（具体的内容、日程）	江戸川区パラスポーツ係 江戸川区総合体育館 東京都障害者スポーツ協会
	⑦プログラム案_Ver 1.2を生成	事務局
2024/2/26	⑧鹿本学園PTAに案_Ver 1.2をもとに意見交換	鹿本学園PTA役員／事務局
	⑨プログラム案_Ver 1.3を作成	事務局
2024/3/22	⑩現場で指導する総合SC担当者との意見交換	東京都障害者スポーツ協会／事務局
	⑪施設ネットワーク検討会議で最終案の議論	施設ネットワーク検討会議委員

(3) 江戸川区モデルプログラム概要(2024 年度)

第1フェーズから第2フェーズへの地域移行の概要は図表3-3の通りである。第1フェーズの第1回、第2回は、ハブ施設である東京都障害者総合スポーツセンターで実施、第2フェーズの第3回、第6回、第7回は江戸川区内のサテライト施設である江戸川区総合体育館、第2フェーズの第4回、第5回、第8回は、地域のその他社会資源である小岩アーバンプラザ、東部区民館、中平井コミュニティ会館、葛西区民館で会場として設定した。実際には、参加者の居住地と交通アクセス等を考慮した結果、地域のその他社会資源の会場として利用されたのは小岩アーバンプラザと東部区民館であった。参加者と保護者一覧は図表3-4、モデルプログラム実施概要は図表3-5にまとめた。

図表 3-3 江戸川区モデルプログラムにおける地域移行の概要



図表 3-4 江戸川区モデルプログラム参加者(敬称略、五十音順)

参加者名	所属	保護者名
道解真人	東京都立鹿本学園 高等部 1年	道解麻由美
平田友吾	東京都立鹿本学園 小学部 2年	平田絢子
山田稟子	東京都立鹿本学園 中学部 3年	山田靖子
吉野叶恋	東京都立鹿本学園 高等部 1年	吉野純子

図表 3-5 江戸川区モデルプログラム実施概要

フェーズ	回数	日時		会場	主指導	指導補助	備考
第1フェーズ	第1回 第2回	(1) 6/22(土)	13:30-14:30	東京都障害者 総合スポーツセン ター プール	・東京都障害者総合スポーツセン ター職員（専門職） ・NPO法人ゆめけん	・バラスポーツ指導員 ・江戸川区総合体育館スタッフ	既存教室「重度障害者のた めのプールひろば」を活用
		(2) 6/29(土)	13:30-14:30				
		(3) 7/20(土)	14:45-15:45				
		(4) 8/12(祝)	13:30-14:30				
		(5) 8/25(日)	13:30-14:30				
		(6) 9/23(日)	13:30-14:30				
第2フェーズ	第3回	10/12(土)	14:00-15:30	小岩アーバンプラザ	・江戸川区総合体育館スタッフ	・理学療法士（東京都理学療法士協会）	既存教室「バラスポーツ初心 者教室」を活用
			10:00-11:30	東部区民館			
	第4回	11/24(日)	9:00-12:00	江戸川区総合体育館 プール	・東京都障害者総合スポーツセン ター職員（専門職）	・江戸川区総合体育館スタッフ	新規事業として実施
	—	11/24(日)	13:00-17:00	江戸川区総合体育館 研修室	・東京都障害者総合スポーツセン ター職員（専門職）	【えどがわバラスポアンバサダー向け事前研修会】	
	第5回	12/15(日)	①10:00-10:45 ②11:00-11:45	江戸川区総合体育館 アーチェリー場	・江戸川区総合体育館スタッフ	・えどがわバラスポアンバサダー	既存教室「なかよし運動教 室」を活用
	第6回	1/11(土)	10:00-11:30	東部区民館	・江戸川区総合体育館スタッフ	・理学療法士（東京都理学療法士協会） ・えどがわバラスポアンバサダー	既存教室「バラスポーツ初心 者教室」を活用
			14:00-15:30	中平井コミュニティ会館			
	第7回	2/8(土)	10:00-11:30	葛西区民館	・江戸川区総合体育館スタッフ	・理学療法士（東京都理学療法士協会） ・えどがわバラスポアンバサダー	既存教室「バラスポーツ初心 者教室」を活用
			14:00-15:30	小岩アーバンプラザ			
	第8回	3/20(祝)	9:00-12:00	江戸川区総合体育館 プール	・江戸川区総合体育館スタッフ	・東京都障害者総合スポーツセンター職員 （専門職）	新規事業として実施

(4) 江戸川区モデルプログラム詳細(2024 年度)

【目的】

- 1) 保護者に一緒に参加してもらい支援方法を経験してもらう。将来的には、ヘルパーなどに支援方法を伝え、スポーツ活動の際にはヘルパーに同行してもらい保護者のレスパイトに繋げる。
- 2) 東京都障害者総合スポーツセンターのスタッフ(専門職)と江戸川区総合体育館のスタッフが一緒に指導していくなかで、最終的に江戸川区総合体育館のスタッフが重度障害者を指導できるようにする。
- 3) 理学療法士が補助する区民館、コミュニティ会館の既存プログラムに参加するなかで、身近な地域でのスポーツ機会の選択肢を増やす。

図表 3-6 江戸川区モデルプログラム詳細(第 1 回/第 2 回)①

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ/東部区民館
実施回数	第1回 (平田親子)
実施日	2024年6月22日 (土)
実施時間	13:30~14:30
実施会場	東京都障害者総合スポーツセンター プール
メイン指導	・ 東京都障害者総合スポーツセンター専門職 ・ NPO法人ゆめけん
補助員	・ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
見学	・ 江戸川区スポーツ振興課 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	1組 (平田親子)
参加者詳細	平田友吾 (8歳)
実施内容	・ 入水、退水確認 ・ 水慣れ、水中での状態確認 ・ 歩行、ジャンプ、(ポールつかまって) ・ 背浮きの確認 ・ 泳法の体勢確認 ・ 泳力チェック ・ 状況に応じて個別対応
備考	東京都障害者総合スポーツセンターの既存教室「重度障害者のためのプールひろば」を活用

図表 3-7 江戸川区モデルプログラム詳細(第1回/第2回)②

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ/東部区民館
実施回数	第2回 (平田親子)
実施日	2024年6月29日 (土)
実施時間	13:30~14:30
実施会場	東京都障害者総合スポーツセンター プール
メイン指導	・ 東京都障害者総合スポーツセンター専門職 ・ NPO法人ゆめけん
補助員	・ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
見学	・ 江戸川区スポーツ振興課 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	1組 (平田親子)
参加者詳細	平田友吾 (8歳)
実施内容	・ 入水、退水確認 ・ 水慣れ、水中での状態確認 ・ 歩行、ジャンプ、(ポールつかまって) ・ 背浮きの確認 ・ 泳法の体勢確認 ・ 泳力チェック ・ 状況に応じて個別対応
備考	東京都障害者総合スポーツセンターの既存教室「重度障害者のためのプールひろば」を活用

図表 3-8 江戸川区モデルプログラム詳細(第 1 回／第 2 回)③

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第1回（吉野親子）
実施日	2024年7月20日（土）
実施時間	14：45～15：45
実施会場	東京都障害者総合スポーツセンター プール
メイン指導	・ 東京都障害者総合スポーツセンター専門職 ・ NPO法人ゆめけん
補助員	・ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
見学	・ 江戸川区スポーツ振興課 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	1組（吉野親子）
参加者詳細	吉野叶恋（15歳）
実施内容	・ 入水、退水確認 ・ 水慣れ、水中での状態確認 ・ 歩行、ジャンプ、（ポールつかまって） ・ 背浮きの確認 ・ 泳法の体勢確認 ・ 泳力チェック ・ 状況に応じて個別対応
備考	東京都障害者総合スポーツセンターの既存教室「重度障害者のためのプールひろば」を活用

図表 3-9 江戸川区モデルプログラム詳細(第 1 回／第 2 回)④

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第 2 回 (吉野親子)
実施日	2024年8月25日 (日)
実施時間	13:30～14:30
実施会場	東京都障害者総合スポーツセンター プール
メイン指導	・ 東京都障害者総合スポーツセンター専門職 ・ NPO法人ゆめけん
補助員	・ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
見学	・ 江戸川区スポーツ振興課 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	1組 (吉野親子)
参加者詳細	吉野叶恋 (15歳)
実施内容	・ 入水、退水確認 ・ 水慣れ、水中での状態確認 ・ 歩行、ジャンプ、(ポールつかまって) ・ 背浮きの確認 ・ 泳法の体勢確認 ・ 泳力チェック ・ 状況に応じて個別対応
備考	東京都障害者総合スポーツセンターの既存教室「重度障害者のためのプールひろば」を活用

図表 3-10 江戸川区モデルプログラム詳細(第1回/第2回)⑤

施設ネットワーク	【ハブ施設】東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】小岩アーバンプラザ/東部区民館
実施回数	第1回（道解親子）
実施日	2024年8月12日（月）
実施時間	14：45～15：45
実施会場	東京都障害者総合スポーツセンター プール
メイン指導	・ 東京都障害者総合スポーツセンター専門職 ・ NPO法人ゆめけん
補助員	・ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
見学	・ 江戸川区スポーツ振興課 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	1組（道解親子）
参加者詳細	道解真人（16歳）
実施内容	・ 入水、退水確認 ・ 水慣れ、水中での状態確認 ・ 歩行、ジャンプ、（ポールつかまって） ・ 背浮きの確認 ・ 泳法の体勢確認 ・ 泳力チェック ・ 状況に応じて個別対応
備考	東京都障害者総合スポーツセンターの既存教室「重度障害者のためのプールひろば」を活用

図表 3-11 江戸川区モデルプログラム詳細(第1回/第2回)⑥

施設ネットワーク	【ハブ施設】東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】小岩アーバンプラザ/東部区民館
実施回数	第2回(道解親子)
実施日	2024年9月23日(祝)
実施時間	13:30~14:30
実施会場	東京都障害者総合スポーツセンター プール
メイン指導	・東京都障害者総合スポーツセンター専門職 ・NPO法人ゆめけん
補助員	・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員 ・江戸川区総合体育館スタッフ
見学	・江戸川区スポーツ振興課 ・江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	1組(道解親子)
参加者詳細	道解真人(16歳)
実施内容	・入水、退水確認 ・水慣れ、水中での状態確認 ・歩行、ジャンプ、(ポールつかまって) ・背浮きの確認 ・泳法の体勢確認 ・泳力チェック ・状況に応じて個別対応
備考	東京都障害者総合スポーツセンターの既存教室「重度障害者のためのプールひろば」を活用

図表 3-12 江戸川区モデルプログラム詳細（第 3 回）

施設ネットワーク	【ハブ施設】東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第3回
実施日	2024年10月12日（土）
実施時間	・ 【AM】 10：00～11：30 ・ 【PM】 14：00～15：30
実施会場	・ 【AM】 東部区民館 ・ 【PM】 小岩アーバンプラザ
メイン指導	江戸川区総合体育館スタッフ
補助員	東京都理学療法士協会所属 理学療法士
見学	・ 江戸川区スポーツ振興課 ・ 江戸川区総合体育館スタッフ
参加親子	・ 【AM】 2組（平田親子、吉野親子） ・ 【PM】 2組（道解親子、山田親子）
参加者詳細	・ 【AM】 平田友吾（8歳）／吉野叶恋（15歳）、 ・ 【PM】 道解真人（16歳）／山田稟子（15歳）
実施内容	
備考	江戸川区総合体育館の既存教室「パラスポーツ初心者教室」を活用

図表 3-13 江戸川区モデルプログラム詳細（第 4 回）

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第4回
実施日	2024年11月24日（日）
実施時間	9：00～12：00
実施会場	江戸川区総合体育館プール
メイン指導	東京都障害者総合スポーツセンター 専門職
補助員	江戸川区総合体育館スタッフ
見学	江戸川区スポーツ振興課
参加親子	3 組（平田親子、吉野親子、道解親子）
参加者詳細	平田友吾（8歳）、吉野叶恋（15歳）、道解真人（16歳）
実施内容	・ 体調確認 ・ 着替え誘導 ・ 準備体操 ・ 入水対応 ・ 個別対応 ・ 退水対応 ・ 採暖 ・ 着替え確認 ・ 振り返り、フィードバック
備考	本実践研究のために新規に作成したプログラム ※平田親子、吉野親子は体調不良で欠席。

図表 3-14 江戸川区モデルプログラム詳細（パラスポーツアンバサダー研修会）

えどがわパラスポアンバサダー研修会	
施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施日	2024年11月24日（日）
実施時間	13：00～15：00
講師	東京都障害者総合スポーツ協会 専門職
講義内容	・ 障害について ・ 運動への誘導 ・ 安全管理 ・ コーディネート
参加者	えどがわパラスポアンバサダー14名

図表 3-15 江戸川区モデルプログラム詳細（第 5 回）

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第5回
実施日	2024年12月15日（日）
実施時間	10：00～12：00
実施会場	江戸川区総合体育館アーチェリー場
メイン指導	江戸川区総合体育館スタッフ
補助員	えどがわパラスポアンバサダー 東京都障害者総合スポーツセンター 専門職
見学	江戸川区スポーツ振興課
参加親子	4 組（平田親子、吉野親子、道解親子、山田親子）
参加者詳細	平田友吾（8歳）、吉野叶恋（15歳）、道解真人（16歳）、山田稟子（15歳）
実施内容	・ 準備体操 ・ ふうせん遊び ・ フライングディスク ・ ボッチャなど
備考	江戸川区総合体育館の既存教室「なかよし運動教室」を活用

図表 3-16 江戸川区モデルプログラム詳細（第 6 回）

施設ネットワーク	【ハブ施設】東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第6回
実施日	2025年1月11日（土）
実施時間	10：00～11：30
実施会場	東部区民館
メイン指導	江戸川区総合体育館スタッフ
補助員	東京都理学療法士協会所属 理学療法士 えどがわパラスポアンバサダー 東京都障害者総合スポーツセンター 専門職
見学	江戸川区スポーツ振興課
参加	1組（山田親子）
参加者詳細	山田稟子（15歳）
実施内容	・ 準備体操 ・ ふうせん遊び ・ フライングディスク ・ ボッチャなど
備考	江戸川区総合体育館の既存教室「なかよし運動教室」を活用

図表 3-17 江戸川区モデルプログラム詳細(第7回)

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第7回
実施日	2025年2月8日（土）
実施時間	14：00～15：30
実施会場	小岩アーバンプラザ
メイン指導	江戸川区総合体育館スタッフ
補助員	東京都理学療法士協会所属 理学療法士 えどがわパラスポアンバサダー 東京都障害者総合スポーツセンター 専門職
見学	江戸川区スポーツ振興課
参加親子	2組（吉野親子、道解親子）
参加者詳細	吉野叶恋（15歳）、道解真人（16歳）
実施内容	・ 準備体操 ・ ふうせん遊び ・ フライングディスク ・ ボッチャなど
備考	江戸川区総合体育館の既存教室「パラスポーツ初心者教室」を活用

図表 3-18 江戸川区モデルプログラム詳細（第 8 回）

施設ネットワーク	【ハブ施設】 東京都障害者総合スポーツセンター
	【サテライト施設】 江戸川区総合体育館
	【地域のその他社会資源】 小岩アーバンプラザ／東部区民館
実施回数	第8回
実施日	2025年3月20日（祝）
実施時間	9：00～12：00
実施会場	江戸川区総合体育館プール
メイン指導	江戸川区総合体育館スタッフ
補助員	東京都障害者総合スポーツセンター 専門職
見学	江戸川区スポーツ振興課
参加親子	3組（平田親子、吉野親子、道解親子）
参加者詳細	平田友吾（8歳）、吉野叶恋（15歳）、道解真人（16歳）
実施内容	・体調確認 ・着替え誘導 ・準備体操 ・入水対応 ・個別対応 ・退水対応 ・採暖 ・着替え確認 ・振り返り、フィードバック
備考	本実践研究のために新規に作成したプログラム

(5)まとめと考察

プログラムの特長を以下 5 つにまとめた。

1) プログラムの活用

【第 1 回／第 2 回】

東京都障害者スポーツセンターが実施している「重度障害者のためのプールひろば」に本プログラム用に枠を設定して、各回 1 組の親子が 2 回ずつ参加した。

【第 4 回／第 8 回】

本プログラム用に江戸川区総合体育館プールプログラムとして新規に作成した。

【第 3 回／第 5 回／第 6 回】

江戸川区総合体育館が実施している「パラスポーツ初心者教室」の参加対象を重度障害者まで広げて、本プログラム参加者が参加できるように調整した。

【第 7 回】

江戸川区総合体育館が実施している「なかよし運動教室」の参加対象を重度障害者まで広げて、本プログラム参加者が参加できるように調整した。

2) プールプログラム指導

【第 1 回／第 2 回】

東京都障害者総合スポーツセンターのプールを会場に、主指導を東京都障害者総合スポーツセンタースタッフ（専門職）が担当し、江戸川区総合体育館スタッフが指導補助としてプールに入り、指導ノウハウを学んだ。

【第 4 回】

会場を江戸川区総合体育館プールに移動し、主指導は引き続き、主指導を東京都障害者総合スポーツセンタースタッフ（専門職）が担当し、指導補助として江戸川区総合体育館スタッフがプールに入った。

【第 8 回】

会場は引き続き江戸川区総合体育館プールだが、主指導を江戸川区総合体育館スタッフが行い、指導補助として東京都障害者総合スポーツセンタースタッフ（専門職）が入った。

【第 4 回／第 8 回】

開催前に、江戸川区総合体育館プールに東京都障害者総合スポーツセンタースタッフ（専門職）、江戸川区総合体育館スタッフが集まり、受付、着替え、プールサイドの移動、入水、プール指導など、サテライト施設で重度障害者を受け入れる際のシミュレーションを一緒に行った。

3) スタジオプログラム指導

【第 3 回／第 5 回／第 6 回／第 7 回】

主指導を江戸川区総合体育館スタッフがを行い、指導補助として東京都障害者総合スポーツセンタースタッフ(専門職)が入った。既存のプログラムに重度障害者を受け入れるための注意事項について専門職から指導を受けた。

4) えどがわパラスポアンバサダー

日本パラスポーツ協会公認初級パラスポーツ指導員の資格を保有者で、江戸川区内で活動する地域ボランティアで、第5回以降のプログラム参加支援を依頼するため、第4回プログラム終了後に、実技と座学を含めた事前研修会(90分)を重度障害児向けの研修を専門職が実施した。

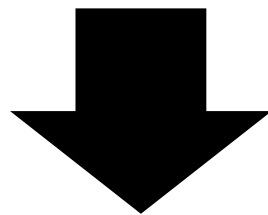
5) 担当制の導入

参加者の安全・安心を確保するため、参加親子を担当する江戸川区総合体育館のスタッフは、第1回から第8回まで変更せず、信頼関係の構築を進めた。

モデルプログラムの目的と成果は以下の通りである。

目的①

保護者に一緒に参加してもらい支援方法を経験してもらう。将来的には、ヘルパーなど支援方法を伝え、スポーツ活動の際にはヘルパーに同行してもらい保護者のレスパイトに繋げる。

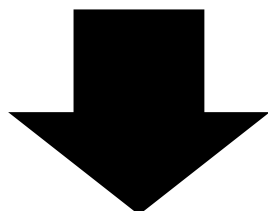


成果①

プールプログラムやスタジオプログラムに保護者が一緒に参加することで支援方法を経験できた。さらに、専門職が保護者に対して当事者シミュレーションを行ったことで、保護者のスポーツ支援方法の理解が深まり、スポーツ支援の重要性を再認識できた。保護者が体調不良でプログラムと一緒に参加できない際には、江戸川区総合体育館のスタッフが保護者役として一緒に参加した。その間、保護者はレスパイトの時間を過ごすことができた。さらに、第三者であるスタッフと一緒に時間を過ごす中で、子どもの自立が育まれた。

目的②

東京都障害者総合スポーツセンターのスタッフ(専門職)と江戸川区総合体育館のスタッフが一緒に指導していくなかで、最終的に江戸川区総合体育館のスタッフが重度障害者を指導できるようにする。

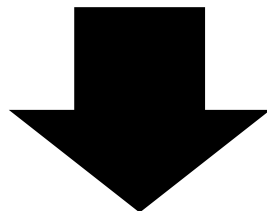


成果②

プログラムを通して、専門職と江戸川区総合体育館スタッフが、同じ現場で一緒に指導できた。すでにスポーツ指導についての指導経験・支援経験が豊富な江戸川区総合体育館スタッフが、重度障害者へのスポーツ指導において、専門職から指導、フィードバックの機会を年間を通して複数回経験することができたことで、最終回では、江戸川区総合体育館スタッフが自信を持って重度障害者へのスポーツ指導を行った。

目的③

理学療法士が補助する区民館、コミュニティ会館の既存プログラムに参加するなかで、身近な地域でのスポーツ機会の選択肢を増やす。



成果③

東京都理学療法士協会に所属する理学療法士が、第3回、第6回、第7回にプログラム指導補助として参加した。メイン指導者の江戸川区総合体育館スタッフと協力しながら、理学療法士としての専門性を活かしながら、当事者支援を行った。最終的には、本プログラム以外に江戸川区が開催するスポーツ教室(理学療法士も指導補助として参加)に本プログラムに参加する親子が参加する機会が生まれ、身近な地域でのスポーツ機会の選択肢が増えた。

2. 北九州市の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究

(1) 北九州市モデルプログラム概要(2024年度)

3つの行政区(小倉南区、八幡東区、門司区)のメイン指導者を北九州市障害者スポーツボランティアの会(SKET)の会員から選定した(図表3-19)。モデルプログラムの実施概要は図表3-20にまとめた。

図表 3-19 北九州市モデルプログラム メイン指導者(敬称略)

行政区	所属	氏名
小倉南区	北九州市障害者スポーツボランティアの会(SKET)	小野真子
八幡東区	〃	松浦道子
門司区	〃	矢野敏弘

図表 3-20 北九州市モデルプログラム実施概要

フェーズ	グループ	回数	月日	時間	参加者数	会場	主指導	指導補助
第1フェーズ	小倉南区グループ	第1回	6月7日	10:30~11:30	40人	城野体育館	SKET 小野真子	・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
		第2回	10月4日	10:30~11:30	40人	城野体育館		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
第2フェーズ		第3回	12月6日	10:30~11:30	20人	障害福祉サービス事業所リーシュ		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
第1フェーズ	八幡東区グループ	第1回	7月12日	13:30~14:30	12人	八幡東体育館	SKET 松浦道子	・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
		第2回	2月14日	13:30~14:30	12人	八幡東体育館		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
第2フェーズ		第3回	10月21日	13:30~14:30	12人	多機能型事業所 ワンステップ		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
第1フェーズ	門司区グループ	第1回	8月5日	13:30~14:30	12人	門司体育館	SKET 矢野敏弘	・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
		第2回	10月7日	13:30~14:30	12人	門司体育館		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
		第3回	2月3日	13:30~14:30	12人	門司体育館		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ
第2フェーズ		第4回	12月13日	13:30~14:30	12人	スマイル門司		・アレアス職員(専門職) ・SKETスタッフ

1) 小倉南区グループ

第1フェーズから第2フェーズへの地域移行の概要は図表3-21の通りである。第1フェーズの第1回、第2回は、サテライト施設である城野体育館で実施、第2フェーズの第3回は地域のその他社会資源である障害福祉サービス事業所リーシュで実施した。

図表 3-21 北九州市(小倉南区)モデルプログラムにおける地域移行の概要

第1フェーズ		第2フェーズ	
実施回	第1回／第2回	実施回	第3回
施設形態	サテライト施設	施設形態	地域のその他社会資源
会場	城野体育館	会場	障害福祉サービス事業所リーシュ



①参加者

小倉南区の障害福祉事業所(フラワー木町、障害福祉サービス事業所リーシュ、ファインズ ムービング)の利用者と各事業所スタッフが一緒に参加した。

②プログラムの活用

北九州市障害者スポーツセンター アレアスが実施している「巡回スポーツ教室」を活用した。従来の教室は、主指導を専門職であるアレアス職員が行っていたが、本プログラムの主指導は北九州市障害者スポーツボランティアの会(SKET)登録の指導者とした。プログラム内容は、参加施設のスタッフと相談して決定した。

③指導体制

主指導のSKET指導者は、これまでのSKETでの活動内容、およびプログラム終了後の地域での活動可能性を考慮してアレアスの専門職が選定した。指導補助のSKETスタッフは、SKET登録者から募った。指導補助のアレアス職員(専門職)は、従来の「巡回スポーツ教室」で主指導の経験がある職員を中心に選定した。アレアス所長が全プログラムに参加して、提供するプログラムの安全管理につとめた。

④事前ヒアリングの実施

第2フェーズを実施するにあたり、アレアス所長とSKET主指導スタッフが事前に障害福祉サービス事業所リーシュを訪れて利用できる道具や機材の確認、安全に活動できるように当日の家具移動などを依頼した。加えて、参加予定者の状況や特徴について、事業所スタッフに確認した。

⑤担当制の導入

利用者との信頼関係の構築、安全・安心を確保する観点から、主指導のSKET指導者は、第1フェーズ、第2フェーズと変更せずに実施した。

2) 八幡東区グループ

第1フェーズから第2フェーズへの地域移行の概要は図表3-22の通りである。第1フェーズの第1回、第2回はサテライト施設である八幡東体育館で実施、第2フェーズの第3回は地域のその他社会資源である多機能型事業所ワンステップで実施した。

図表 3-22 北九州市（八幡東区）モデルプログラムにおける地域移行の概要

第1フェーズ		第2フェーズ	
実施回	第1回／第2回	実施回	第3回
施設形態	サテライト施設	施設形態	地域のその他社会資源
会場	八幡東体育館	会場	多機能型事業所ワンステップ

①参加者

八幡東区の障害福祉事業所（多機能型事業所ワンステップ、アベック戸畑）の利用者と各事業スタッフが一緒に参加した。

②プログラム

北九州市障害者スポーツセンター アレアスが実施している「巡回スポーツ教室」を活用した。従来の教室は、主指導を専門職であるアレアス職員が行っていたが、本プログラムの主指導は北九州市障害者スポーツボランティアの会（SKET）登録の指導者とした。プログラム内容は、参加施設のスタッフと相談して決定した。

③指導体制

主指導のSKET指導者は、これまでのSKETでの活動内容、およびプログラム終了後の地域での活動可能性を考慮してアレアスの専門職が選定した。指導補助のSKETスタッフは、SKET登録者から募った。指導補助のアレアス職員（専門職）は、従来の「巡回スポーツ教室」で主指導の経験がある職員を中心に選定した。アレアス所長が全プログラムに参加して、提供するプログラムの安全管理につとめた。

④事前ヒアリングの実施

第2フェーズを実施するにあたり、アレアス所長とSKET主指導スタッフが事前に多機能型事業所ワンステップを訪れて利用できる道具や機材の確認、安全に活動できるように当日の家具移動などを依頼した。加えて、参加予定者の状況や特徴について、事業所スタッフに確認した。

⑤担当制の導入

利用者との信頼関係の構築、安全・安心を確保する観点から、主指導のSKET指導者は、第1フェーズ、第2フェーズと変更せずに実施した。

3) 門司区グループ

第1フェーズから第2フェーズへの地域移行の概要は図表3-23の通りである。第1フェーズの第1回、第2回、第3回はサテライト施設である門司体育館で実施、第2フェーズの第4回は地域のその他社会資源であるスマイル門司で実施した。

図表 3-23 北九州市（門司区）モデルプログラムにおける地域移行の概要

第1フェーズ				第2フェーズ	
実施回	第1回／第2回／第3回			実施回	第4回
施設形態	サテライト施設			施設形態	地域のその他社会資源
会場	門司体育館			会場	スマイル門司

①参加者

門司区の障害福祉事業所（スマイル門司）の利用者と事業所スタッフが一緒に参加した。

②プログラム

北九州市障害者スポーツセンター アレアスが実施している「巡回スポーツ教室」を活用した。従来の教室は、主指導を専門職であるアレアス職員が行っていたが、本プログラムの主指導は北九州市障害者スポーツボランティアの会（SKET）指導者とした。プログラム内容は、参加する施設スタッフと相談して決定した。

③指導体制

主指導のSKET指導者は、これまでのSKETでの活動内容、およびプログラム終了後の地域での活動可能性を考慮してアレアスの専門職が選定した。指導補助のSKETスタッフは、SKET登録者から募った。指導補助のアレアス職員（専門職）は、従来の「巡回スポーツ教室」で主指導の経験がある職員を中心に選定した。アレアス所長が全プログラムに参加して、提供するプログラムの安全管理につとめた。

④事前ヒアリングの実施

第2フェーズを実施するにあたり、アレアス所長とSKET主指導スタッフが事前にスマイル門司を訪れて利用できる道具や機材の確認、安全に活動できるように当日の家具移動などを依頼した。加えて、参加予定者の状況や特徴について、事業所スタッフに確認した。

⑤担当制の導入

利用者との信頼関係の構築、安全・安心を確保する観点から、主指導のSKET指導者は、第1フェーズ、第2フェーズと変更せずに実施した。

(2) 北九州市モデルプログラム詳細(2024 年度)

【目的】

- ・ サテライト施設を会場に地域のその他社会資源の利用者に巡回スポーツ教室に参加してもらう
- ・ アレアスが仲介役となり、SKET と地域の当事者が繋がる機会を提供する
- ・ SKET がハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源の施設を繋ぐ潤滑油となり、地域のその他社会資源の施設において SKET 主導の指導に繋げる

【小倉南区グループにおける目標】

- ①小倉南区を中心とした障害者にスポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会を提供する。
- ②対象事業所で日常的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組めるプログラムを提供する。

図表 3-24 北九州市(小倉南区)モデルプログラム詳細(第 1 回)

対象地区	小倉南区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】城野体育館
	【地域のその他社会資源】障害福祉サービス事業所リーシュ、フラワー木町、ファインズムービング
実施回数	第1回
実施日	2024年6月7日(金)
実施時間	10:30~11:30
実施会場	城野体育館
メイン指導者	SKET: 小野真子
サポートスタッフ	SKET: 4名/アレアス: 3名
参加人数	45名
参加内訳	障害者: 34名/職員: 11名(3施設合計)
障害種別内訳	知的障害: 31名/精神障害: 3名
年齢区分	18~64歳: 34名
居住地区	門司区: 1名/小倉北区: 11名/小倉南区: 21名/八幡東区: 1名
実施内容	・ ラジオ体操 ・ 玉入れ ・ 休憩 ・ 卓球バレー ・ 整理体操
備考	玉入れは、①各施設2列に並んで2級ずつ玉入れ、②施設ごとに、全ての紅白玉を5つのゴールに入れ、時間を競った(2回ずつ実施)。

図表 3-25 北九州市（小倉南区）モデルプログラム詳細（第 2 回）

対象地区	小倉南区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】城野体育館
	【地域のその他社会資源】障害福祉サービス事業所リーシュ、フラワー木町、ファインズムービング
実施回数	第2回
実施日	2024年10月4日（金）
実施時間	10：30～11：30
実施会場	城野体育館
メイン指導者	SKET：小野真子
サポートスタッフ	SKET：3名／アレアス：3名
参加人数	41名
参加内訳	障害者：32名／職員：9名（3施設合計）
障害種別内訳	肢体不自由：1名／知的障害：30名／精神障害：1名
年齢区分	18～64歳：32名
居住地区	門司区：1名／小倉北区：7名／小倉南区：22名／八幡東区1名／北九州市外：1名
実施内容	・ ラジオ体操、ストレッチ ・ 玉入れ ・ 休憩 ・ ボール遊び ・ フライングディスク ・ 整理体操
備考	ラジオ体操・ストレッチは、新聞で作った棒を使っての体操・ストレッチを行った。 ボール運びは、2人1組でタオルにボールを乗せて実施後、1列になりボールを後ろに手渡しで回した。 フライングディスクは、コーンを狙って当てるようにした。 参加施設で人数にバラつきがあったため、合同でチームを作り競技を行ったが、スムーズに行えた。

図表 3-26 北九州市（小倉南区）モデルプログラム詳細（第 3 回）

対象地区	小倉南区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】城野体育館
	【地域のその他社会資源】障害福祉サービス事業所リーシュ、フラワー木町、ファインズムービング
実施回数	第3回
実施日	2024年12月6日（金）
実施時間	10：20～11：20
実施会場	障害福祉サービス事業所リーシュ
メイン指導者	SKET：小野真子
サポートスタッフ	アレアス：2名
参加人数	20名
参加内訳	障害者：16名／職員：4名
障害種別内訳	知的障害：16名
年齢区分	18～64歳：16名
居住地区	門司区：1名／小倉南区：16名／八幡東区：1名
実施内容	・ 準備体操、ストレッチ ・ 休憩 ・ ボール渡し ・ ラダーゲッター ・ 整理体操
備考	ボール渡しは、様々な渡し方で2チームに分かれて速さを競った。 ラダーゲッターは、チーム対抗戦で実施した。1人3回まで順番に投げ、合計2回戦まで行った。

【八幡東区グループにおける目標】

- ①八幡東区を中心とした障害者にスポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会を提供する。
- ②対象事業所で日常的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組めるプログラムを提供する。

図表 3-27 北九州市（八幡東区）モデルプログラム詳細（第 1 回）

対象地区	八幡東区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】八幡東体育館
	【地域のその他社会資源】多機能型事業所ワンステップ、アベック戸畑
実施回数	第1回
実施日	2024年7月12日（金）
実施時間	13：30～14：30
実施会場	八幡東体育館
メイン指導者	SKET：松浦道子
サポートスタッフ	SKET：3名／アレアス：3名
参加人数	9名
参加内訳	障害者：6名／職員：3名
障害種別内訳	知的障害：6名 ※車いす（＋装具）参加者：2名
年齢区分	18～64歳：6名
居住地区	小倉南区：1名／若松区：1名／八幡東区：1名／八幡西区：3名
実施内容	・ ラジオ体操 ・ ボッチャ ・ 休憩 ・ フライングディスク ・ ディスゲッター ・ 整理体操
備考	ボッチャは、競技説明後、3対3のチーム戦で2回戦実施した。 フライングディスクは、約4mの距離から3枚ずつ投げ、枠に入った枚数をチーム戦で競った。 ディスゲッターは、約4mの距離から3枚ずつ投げ、的を射抜いた枚数をチーム戦で競った。 空調設備がなく、水分補給に細心の注意を払った。

図表 3-28 北九州市（八幡東区）モデルプログラム詳細（第 2 回）

対象地区	八幡東区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】八幡東体育館
	【地域のその他社会資源】多機能型事業所ワンステップ、アベック戸畑
実施回数	第2回
実施日	2024年10月21日（月）
実施時間	13：30～14：45
実施会場	多機能型事業所ワンステップ
メイン指導者	SKET：松浦道子
サポートスタッフ	アレアス：1名
参加人数	8名
参加内訳	障害者：5名／職員：3名
障害種別内訳	知的障害：5名
年齢区分	18～64歳：5名
居住地区	八幡東区：5名
実施内容	（第1グループ） ・ラジオ体操 ・ストレッチ ・リズム体操
	（第2グループ） ・ラジオ体操 ・ストレッチ ・リズム体操
備考	同敷地内の2施設で前半、後半に分けて実施した。

図表 3-29 北九州市（八幡東区）モデルプログラム詳細（第 3 回）

対象地区	八幡東区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】八幡東体育館
	【地域のその他社会資源】多機能型事業所ワンステップ、アベック戸畑
実施回数	第3回
実施日	2025年2月14日（金）
実施時間	13：30～14：30
実施会場	八幡東体育館
メイン指導者	SKET：松浦道子
サポートスタッフ	SKET：2名／アレアス：3名
参加人数	16名
参加内訳	障害者：11名／職員：5名
障害種別内訳	知的障害：11名
年齢区分	18～64歳：11名
居住地区	八幡東区11名
実施内容	・ ラジオ体操 ・ 館内ウォーキング ・ 休憩 ・ 卓球バレー ・ ふうせんバレー
備考	場面転換の時間を節約するため、参加者来場前に、卓球バレーとふうせんバレーの会場設営を事前に行った。

【門司区グループにおける目標】

- ①門司区を中心とした障害者にスポーツ・レクリエーション活動に親しむ機会を提供する。
- ②対象事業所で日常的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組めるプログラムを提供する。

図表 3-30 北九州市（門司区）モデルプログラム詳細（第 1 回）

対象地区	門司区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】門司体育館
	【地域のその他社会資源】スマイル門司
実施回数	第1回
実施日	2024年8月5日（月）
実施時間	13：00～14：00
実施会場	門司体育館
メイン指導者	SKET：矢野敏弘
サポートスタッフ	SKET：1名／アレアス：2名
参加人数	13名
参加内訳	障害者：10名／職員：3名
障害種別内訳	肢体不自由：1名／精神障害：9名
年齢区分	18～64歳：10名
居住地区	門司区：10名
実施内容	・ 準備体操 ・ ボッチャ（1試合目） ・ 休憩 ・ ボッチャ（2試合目） ・ ボッチャ（3試合目）
備考	スマイル門司の利用者がボッチャ大会に出場する予定するため、その練習を兼ねてボッチャを実施した。ボッチャの競技説明をしたあとに、3名1チームで、チームの組合せを変えながら、チーム戦を行った。

図表 3-31 北九州市（門司区）モデルプログラム詳細（第 2 回）

対象地区	門司区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】門司体育館
	【地域のその他社会資源】スマイル門司
実施回数	第2回
実施日	2024年10月7日（月）
実施時間	13：30～14：30
実施会場	門司体育館
メイン指導者	SKET：矢野敏弘
サポートスタッフ	SKET：1名／アレアス：2名
参加人数	15名
参加内訳	障害者：12名／職員：3名
障害種別内訳	肢体不自由：1名／知的障害：3名／精神障害：8名
年齢区分	18～64歳：11名／65歳以上：1名
居住地区	門司区12名
実施内容	・ 準備体操 ・ フライングディスク（ディスクの投げ合い） ・ フライングディスク（アキュラシー投擲練習） ・ 休憩 ・ フライングディスク（ディスタンス投擲練習） ・ フライングディスク（ディスタンス投擲）
備考	スマイル門司の利用者がフライングディスク大会に出場する予定するため、その練習を兼ねてフライングディスクを実施した。競技説明をしたあとに、アキュラシー、ディスタンスの練習をそれぞれ行った。

図表 3-32 北九州市（門司区）モデルプログラム詳細（第 3 回）

対象地区	門司区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】門司体育館
	【地域のその他社会資源】スマイル門司
実施回数	第3回
実施日	2024年12月13日（金）
実施時間	13：15～14：15
実施会場	スマイル門司
メイン指導者	SKET：矢野敏弘
サポートスタッフ	アレアス：4名
参加人数	16名
参加内訳	障害者：13名／職員：3名
障害種別内訳	肢体不自由：1名／知的障害：4名／精神障害：8名
年齢区分	18～64歳：12名／65歳以上：1名
居住地区	門司区13名
実施内容	・ 準備体操 ・ 卓球バレー（1試合目） ・ 休憩 ・ 卓球バレー（2試合目） ・ 卓球バレー（3試合目）
備考	普段、集団行動が苦手な利用者も、チームメートと一緒に席に座り、卓球バレーを楽しんだ。試合を重ねるごとに力加減が身に付いてきた。

図表 3-33 北九州市（門司区）モデルプログラム詳細（第 4 回）

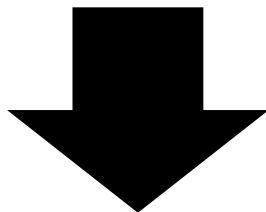
対象地区	門司区
施設ネットワーク	【ハブ施設】北九州市障害者スポーツセンター アレアス
	【サテライト施設】門司体育館
	【地域のその他社会資源】スマイル門司
実施回数	第4回
実施日	2025年2月3日（月）
実施時間	13：30～14：30
実施会場	門司体育館
メイン指導者	SKET：矢野敏弘
サポートスタッフ	アレアス：2名
参加人数	14名
参加内訳	障害者：11名／職員：3名
障害種別内訳	肢体不自由：1名／知的障害：2名／精神障害：8名
年齢区分	18～64歳：10名／65歳以上：1名
居住地区	門司区11名
実施内容	・ ラジオ体操 ・ スクエアボッチャ（1試合目） ・ スクエアボッチャ（2試合目） ・ 休憩 ・ スクエアボッチャ（3試合目） ・ スクエアボッチャ（4試合目）
備考	普段、集団行動が苦手な利用者も、チームメートと一緒に席に座り、卓球バレーを楽しんだ。試合を重ねるごとに力加減が身に付いてきた。

(3)まとめと考察

モデルプログラムの目的と成果は以下の通りである。

目的①

サテライト施設を会場に地域のその他社会資源の利用者に巡回スポーツ教室に参加してもらう。



成果①

小倉南区では、サテライト施設である城野体育館を会場に、地域のその他社会資源であるフラワー木町、障害福祉サービス事業所リーシュ、ファインズムービングの3施設の利用者が巡回スポーツ教室に参加した。

八幡東区では、サテライト施設である八幡東体育館を会場に、地域のその他社会資源である多機能型事業所ワンステップ、アベック戸畑の2施設の利用者が巡回スポーツ教室に参加した。

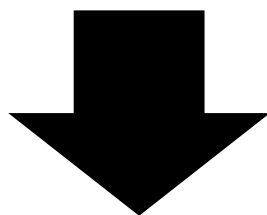
門司区では、サテライト施設である門司体育館を会場に、地域のその他社会資源であるスマイル門司の利用者が巡回スポーツ教室に参加した。

目的②

アレアスが仲介役となり、SKETと地域の当事者が繋がる機会を提供する。

目的③

SKETがハブ施設、サテライト施設、地域のその他社会資源の施設を繋ぐ潤滑油となり、地域のその他社会資源の施設においてSKET主導の指導に繋げる。



成果②③

従来、アレアスの専門職が担っていた巡回スポーツ教室の主旨導を、SKETの指導者に変更した。主旨導者の変更により、これまで専門職が行っていたプログラム実施前の事業所への事前訪問や事業所スタッフとの意見交換をSKET指導者が年間を通して主導したことにより、各行政区においてSKET指導者の存在と役割を認識してもらった。SKET指導者とプログラム参加者が複数回に渡り、プログラムを通じて一緒に時間を過ごしたことで安心感が生まれた。各事業所・SKET・アレアスと信頼関係が構築されたことで次年度以降の活動を滞りなく行える土壌ができた。

IV. 実施体制

東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究は、以下の関係者と笹川スポーツ財団の共同研究により実施した。(2024 年度調査時)

江戸川区文化共育部スポーツ振興課

〃

〃

江戸川区総合体育館

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

東京都立鹿本学園 PTA

〃

東京都障害者スポーツ協会スポーツ振興部事業推進課

東京都障害者スポーツ協会スポーツ振興部地域スポーツ振興課

東京都障害者総合スポーツセンタースポーツ支援課

笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所

笈川晋一

萩原正明

田中知子

山田 勝之

原満梨絵

富永美千代

關川智絵

阿部あゆみ

生井一公

村上久留美

柳田千津子

木原栄美

二ノ宮美津希

山田靖子

山口美佳

佐々木ゆみ

屋敷可奈恵

矢壁彩

小淵和也

北九州市における障害者スポーツ施設に関する研究は、以下の関係者と笹川スポーツ財団の共同研究により実施した。(2024 年度調査時)

北九州市障害者スポーツセンター

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

//

北九州市障害者スポーツボランティアの会 (SKET)

//

//

//

//

//

//

笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所

有延忠剛

山下悟

都留有香

池永いずみ

宮崎賢人

藤本有紀

古園美久

山下順子

近藤久子

中溝友里亜

間所章治

亀井琉以奈

小野真子

松浦道子

矢野敏弘

田中龍二

栢原ゆかり

戸田たまえ

中村記子

小淵和也

V. 参考文献

- ・ 笹川スポーツ財団(2022). 障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究 2021.
- ・ 笹川スポーツ財団(2023). 東京都における障害者スポーツ施設運営に関する研究.
- ・ 笹川スポーツ財団(2024). 地域における障害者スポーツ施設運営に関する研究.
- ・ 笹川スポーツ財団(2023). スポーツ白書 2023～次世代のスポーツ政策～.
- ・ スポーツ庁(2024). 令和 5 年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究.
- ・ 東京都生活文化スポーツ局 東京都障害者スポーツ協会(2023). 障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル.
- ・ 東京都障害者スポーツ協会(2023). <https://tsad-portal.com/>
- ・ 日本パラスポーツ協会(2022). <https://www.parasports.or.jp/>
- ・ 日本パラスポーツ協会(2023). 令和 4 年度国庫補助事業 公認障がい者スポーツ指導員実態調査報告書.

地域の障害者スポーツ振興における施設ネットワーク実践研究 報告書

2025 年 3 月 発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3F

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。
本事業は、ポータルレースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。

